

育てにくさを感じたら にじいろ子育てハンドブック

0歳～18歳までの支援

2024年度版





このハンドブックは、静岡市内のペアレントメンター（※）が意見を出しあって作りました。

（個性なお子さんを持つ）先輩お母さんたちの子育て経験の中で、知りたかった情報、困ったときの相談先、子どもの成長に応じた教育、福祉、医療などの地域情報をまとめています。メンターによるリアルな体験談や、ちょっとした本音も入れました。

今、お子さんの発達に不安を抱え、対応に悩まれ、つらさや孤独感を感じている皆さんに、ひとりではなく仲間や支援者がいることを知っていただけたらと思います。このハンドブックが、皆さんが前を向くことへの手助けとなれたら、嬉しいです。なお、体験談についてはペアレントメンターや当事者からのエピソードですが、個人が特定できないよう一部改変してあることをご了承ください。あくまでも個人の経験をもとにして作成しております。すべての方に当てはまるわけではありませんので、お困りの際は関係機関等にご相談ください。

※ペアレント・メンターとは、

自ら発達障害のある子育てを経験し、かつ相談支援に関する一定のトレーニングを受けた親を指します。メンターは、同じような発達障害のある子どもをもつ親に対して、共感的なサポートを行い、地域資源についての情報を提供することができます。高い共感性に基づくメンターによる支援は、専門家による支援とは違った効果があることが指摘され、厚生労働省においても有効な家族支援システムとして推奨されています。

ペアレントメンターからのメッセージ

いつも心の中にある不安、ホッとできない気持ち、そんな気持ちに寄り添いたくてこの支援ブックを作りました。

今、これから先のことを考えて不安で仕方なくても、ずっと同じところにはいないのです。親子でちょっとずつ進んでいける。子ども自分もちょっとずつ成長します。だから大丈夫。

人と違うから世の中面白い(^_^)

「つながりって心強い」

「考えてもどうにもならないことはグダグダ考えない。」

子どもと私の居場所ってどこだろう。

この子にしてあげれることって何？

先が見えない不安があったけど、話を聞いてくれたり、一緒に考えてくれる人がいました。

この先、私たちの子どもは、いくつものトンネルを、いろいろなペースで歩いていきます。遅い子もいれば、すっ飛ばす子、通れない子もいると思います。

トンネルを出たり、入ったりを繰り返して、いつの間にか、このトンネルは入っていける！という判断や自信がついたりして、少々長く薄暗くても、力強く歩いて行ける力になればいいな。と思っています。

他の子どもと違う…と思ったけどどうしたらいいのかな。

音に反応するのに名前を読んでも振り向かないのは？

癇癢やこだわりが周りの子ども達より大変で、みんなと同じことが出来ないのは何故なの？と悩みました。

他の子ども達と比べて出来ないことばかりで、わからない日々が辛くて…誰かおしえて欲しい。聞いて欲しい。

『いっしょだよ』（みんないっしょだよ）と言って欲しくて…

そんなときに読んでみてください。

子どもの発達が気になったら、うちの子発達障害かも？と疑ったら、

- ・ことばの遅れ
- ・大泣き・かんしゃく
- ・じっとしていない・多動
- ・指示が入らない（ダメが分からない）
- ・育てにくさ、しつけにくさ
- ・他の子どもに興味がない / 相手が嫌がっているのが分からない
- ・好きなことがやめられない（切り替えが難しい）
- ・園で集団行動がとれない / 友達とうまく関われない
- ・子育てがうまくいかない
- ・他の子と何か違う

こんなことが気になったら、発達凸凹の子どもを育ててきたペアレントメンターと専門家が一緒になって作成した、このハンドブックを読んでみてください。

- ・発達が気になったらどんな所で相談すればいいの？
- ・発達を伸ばすための療育はどうすれば受けられるの？
- ・同じ悩みのお母さんたちとどうやって繋がれるの？
- ・就園前から就園、小学校、中学校、高校、大人になってからのこと、特性に合わせた関わり方や支援の仕組みが知りたい。
- ・保健・保育・教育・福祉・医療機関などの情報が知りたい
- ・などなど…

疑問に感じるが出てきたら、発達を援助していくための情報誌としてこのハンドブックを活用してください。

きっと「未来への一歩」の手助けになるとと思います。

お子さんご家族の幸福と子どもに関わる人とのやさしいつながりを願って！

2023年3月 「にじいろ子育てハンドブック」作成委員会



「にじいろ子育てハンドブック」第1巻 0歳～18歳までの支援 目次

フローチャート（静岡市の発達支援の仕組み）……………6

第1章《0～6歳 こどもの育ちを支える》

保健・保育・幼児教育・福祉・行政・公的支援機関・医療等について

01 保健福祉センターってどんなところ？……………	8
02 乳幼児健診って何？……………	10
03 健診で精密健診やその他の相談を勧められたら？……………	12
04 医療機関で何をしてもらえるの？……………	14
05 入園について……………	16
06 静岡市の早期発達支援体制……………	22
07 児童発達支援事業所とは……………	24
08 静岡市中心身障害児福祉センター いこいの家……………	26
09 児童発達支援センター もも……………	30
10 静岡市清水うみのこセンター……………	34
11 幼児言語教室ってどんなところ？……………	38



第2章《7～18歳 学びを支える》

小学校・中学校・高校等について

12 就学について（特別支援教育・合理的配慮とは）……………	40
13 特別支援学級ってどんなところ？……………	42
14 特別支援学校ってどんなところ？……………	44
15 通級指導教室ってどんなところ？……………	46
16 放課後等デイサービスって何？……………	48
17 中学校卒業後の進路 高校等のいろいろ……………	50

～ちょっとブレイク～学生時代のエピソード……………	54
18 その他の機関……………	57
19 余暇活動（習い事やイベントなど）について……………	58
20 親の会・きょうだいの会……………	60

マイストーリー1 情緒支援学級から公立高校へ……………	62
マイストーリー2 通常学級マイペース小学5年生……………	64
マイストーリー3 知的支援学級小学4年生……………	66
☆次巻のお知らせ……………	70

このハンドブックでは、行政上の用語を中心に使用しておりますが、「体験談」や「マイストーリー」など保護者からいただいた文章についてはそのまま掲載されています。
（例：「障害」と「障がい」など）



フローチャート

静岡市には、さまざまな支援機関があります。各機関について、次ページから説明します。

	0歳～1歳	2歳	3歳		6歳	7歳～15歳	16歳～18歳
保育・教育	こども園・保育園等					小中学校 (特別支援学級・通級指導教室)	高校等
			こども園・幼稚園等		(幼稚園部・小学部・中学部・高等部) ※幼稚園部は視覚特別支援学校と聴覚特別支援学校に設置		就職等
			幼児言語教室				
			特別支援学校				
			静岡市特別支援教育センター				
子育て・保健支援	保健福祉センター						
	子育て支援センター						
障害福祉サービス等以外		いこいの家 親子教室					
	うみのこセンター						
	静岡市発達障害者支援センターきらり						
障害福祉サービス等							(児童発達支援事業所)
	児童発達支援事業所					放課後等デイサービス事業所	
		児童発達支援センター (おおむね2～3歳から 受け入れ先により対象年齢が異なる場合あり)					
	保育所等訪問支援						
障害児相談支援事業所							

※18歳以降は、第2巻に記載しています

保健福祉センターとは、健康相談・健康教育・各種健診などを通じて、病気の予防や健康増進などをめざす、地域の健康づくりのための拠点です。

子どもの心や身体のこと、子育てについての専門的な知識をもっている保健師等が中心となって、乳幼児健診、健康相談など、地域に密着した子育てのサポートを行っています。

(ちゃむしずおか：https://shizuoka-city.mamafre.jp/ 内より引用)

<市内の保健福祉センター一覧>

福祉センター	住所	電話番号
城東保健福祉センター	葵区城東町24-1	054-249-3180
東部保健福祉センター	葵区千代田7-8-15	054-261-3311
北部保健福祉センター	葵区昭府2-14-1	054-271-5131
藁科保健福祉センター	葵区羽鳥本町5-10	054-277-6712
南部保健福祉センター	駿河区曲金3-1-30	054-285-8111
大里保健福祉センター	駿河区中野新田57-5	054-288-1111
長田保健福祉センター	駿河区鎌田574-1	054-259-5112
清水保健福祉センター	清水区渋川2丁目12-1	054-348-7711
蒲原保健福祉センター	清水区蒲原721-4	054-385-5670
清水保健福祉センター 由比分館	清水区由比北田450	054-376-0533

各センターの地図はこちら↓

https://www.city.shizuoka.lg.jp/695_000003.html

未就園児編

ハイハイしなかった・夜、寝てくれない子だった・偏食・多動・言語が遅い&独特・こだわりの強さ・コミュニケーションの問題・独特な動き・横目・奇声・などなどなど・・・こうやって挙げてみるとたくさんあったなあ。

とにかく可愛い。ユニークな言動を「問題」とは捉えず、一緒に楽しんでた(○○ちゃん語、くるくるダンスなど)。

子育て支援センターが混んでいて子どもが走り回っていつらなくなった時は、児童館に行きました。平日の午前中は比較的空いていてゆったり過ごせたり、体を動かせる部屋や公園が隣にあるところもあって助かりました。

とにかく走る子だったので、遠くの広い公園によく行きました。「静岡市子育てハンドブック」の「お出かけマップ」を見て、いろいろな公園を渡り歩きました。

公園で走り続ける。公園内のホームレスのおじさんたちに可愛がられる。



正しくは、「乳幼児健康診査」といいます。静岡市では、個別で4か月児と10か月児の健康診査、及び集団で1歳6か月児、3歳児の健康診査を行っています。

4か月児健康診査（個別健診）・10か月児健康診査（個別健診）

いずれも個別健診になりますので、市から送付された健康診査受診票をもとに、お近くの医療機関（※委託医療機関）を予約して受診してください。（医療機関で健診を受けると費用の一部が公費負担となります。）

※静岡県下一元化事業として実施していますので、県内ほとんどの医療機関で実施できます。

1歳6か月児健康診査（集団健診）

集団健診ですので、お近くの保健福祉センターで実施されます。（個別通知）

健診内容

問診、歯科（医師）健診、身長・体重等の計測、内科（医師）健診、保健指導、栄養指導、歯科指導

上記の健診後、さらに検査の必要があると判断された場合は別途以下のご案内があります。

1歳6か月児精密健診（対象児）

総合判断から、必要により受診券が発行されますので、委託先の病院での受診をお勧めします。委託先の病院は、子ども家庭課（TEL：054-354-2647）へお問い合わせください。

聞こえの二次検査（対象児）

聴覚障害が疑われるお子さんに対しては、二次検診を実施します。（城東保健福祉センターで月1回実施）



3歳児健康診査（集団健診）

集団健診ですので、お近くの保健福祉センターで実施されます。（個別通知）

健診内容

問診、歯科（医師）健診、身長・体重等の計測、内科（医師）健診、保健指導、栄養指導、歯科指導、尿検査、視力（屈折）検査

上記の健診後、さらに検査の必要があると判断された場合は別途以下のご案内があります。

3歳児精密健診（対象児）

総合判断から、必要により受診券が発行されますので、委託先の病院での受診をお勧めします。委託先の病院は、子ども家庭課（TEL：054-354-2647）へお問い合わせください。

参考資料：静岡市ホームページ

https://www.city.shizuoka.lg.jp/000_003509.html



静岡市発達障害者支援センター「きらり」の所長であり、静岡済生会療育センター令和（旧静岡医療福祉センター）の小児神経科医でもある前田医師が作成した資料をご紹介します。主に、幼児期のお子さんの保護者に分かりやすい内容となっていますので、是非読みください。

支援者の方がご自身の支援力を高める資料としてもご利用いただけます。

子どもの発達が気になった時、子どもの良いところを見つけてほめ、苦手なところを手助けして上手にできるようにするための子育てのヒントを紹介します。子育ての参考にしてください。

<https://www.shssc.jp/seminar/kensyukaisiryō.html>

健診で精密健診やその他の相談を勧められたら？

健診の後に「委託先の医療機関を受診してください」「別日に個別でもう1度相談を受けてください」と言われると、多くの方は「えっ」と驚かれることと思います。「うちの子は発達に問題があるのかな？」「何か自分の対応がまずかったのかな？」と悩まれることもあるでしょう。

そんな時は、「プロに話を聞くチャンス」ととらえてみてください。1歳6か月児・3歳児の集団検診では特に、慣れない場所で長時間待たされ、お子さんの実力が発揮できなかったりすることも多いかと思います。

精密健診や保健センターの個別相談では、個別でお子さんの日頃の様子をじっくりみてもらえます。もし心配な点があれば適切な対応について教えてもらえるはずです。

「数か月後にまた受診してくださいね」とか、「さらに専門機関を紹介しましょう」と言われることもあるかもしれませんが、「またか…」と思わずに早めに受診・相談してみてください。特に、専門の医療機関は、初診までに時間がかかることもありますので、早めに予約されることをお勧めします。

健診時に紹介されなくても、保護者が不安に思っている場合は、まず保健福祉センターやかかりつけ医にご相談ください。その後、必要に応じて経過観察を受けたり、専門の医療機関受診を勧められることもあります。

静岡県のホームページには、各地域の「発達障害を診療等可能な医療機関」が掲載されていますので、必要に応じてご活用ください。

<https://www.pref.shizuoka.jp/kenkofukushi/shogaifukushi/chitekishogai/1040620/1023717.html>

(紹介状が必要な場合もあります)

なお、小さなお子さんの場合は「発達障害、と言い切れる診断はまだつかない」といわれることもありますし、「定期的なフォローはできないけど、療育等に必要なら書類を書くよ」と言ってもらえる場合もあります。

また、「あえて言えば自閉スペクトラム症かな」「だから、こういう対応がいいよ」など言われる場合もあります。ぜひ、「子どもの特性を知って、親子で安心して過ごせるための第1歩」と考えて専門家に相談してみてください。



子どもの発達が気になる、育児がうまくいかないと思う時、地元の保健師さんに相談してみましょう。お母さんの気持ちに寄り添って不安や心配を聞いてくれます。話を聞いてもらうことでお母さんの気持ちが整理されます。その上で子育てへのアドバイスや様々な相談支援の方法を教えてください。お母さん一人で悩まないで保健師さんに相談してみてください。

体験談



1歳半健診で保健師からすすめられて、最初は「えっ」と思ったが、希望者を対象とした保健センターの親子教室に月2回通った。これが、とても楽しかった。理解のないダンナには子どものことを話せなかったから、ここでの友達や先生存在が大きな支えとなった。



3歳児健診で「単語のみ 2語文なし 発音不明瞭」でした。幼稚園入園後、3歳8カ月の時保健センターに相談、保健師が園訪問した際、「集団行動がとれず、常に個別の声掛けが必要。うまく伝えられないため思い通りにならないとかんしゃく、友達とトラブルがある」ため、4歳1か月（年少の終わり）に専門の医療機関受診し、作業療法を開始。身体の使い方が不器用で、走り方がぎこちなく転びやすい、手先も不器用ではしが使えなかったが、2年間の訓練で走り方が安定。はしが上手につかえるようになり、鉛筆も上手に持てるようになりました。人との関わり方も訓練の先生と体験したことで、慣れた人とのコミュニケーションが上手になったり、困った時に相談、聞くことが出来るようになりました。



当時のかかりつけ医の先生が診察時の様子から、気にして声をかけてくれた。紹介状を書いてくれて、専門の医療機関につながる。そのOT（作業療法）が大好きだった。

04 医療機関で何をしてもらえるの？

病院を受診すると、問診や発達検査を受けたり、その後療育（発達支援）を勧められたりすることもあります。

「診断がついたらどうしよう」と不安になる方もいらっしゃるかもしれません。小さいお子さんですと、はっきりした診断がつかず、「経過観察」と言われる場合もあります。経過観察を受けることで、定期的にお子さんの様子を見てもらい、今の段階でできる対応について教えてもらえます。

診断がつくかどうかは、医師に相談してみてください。はっきり診断名を言われる場合もあれば、「ちょっと多動気味だね」「自閉スペクトラム症に当てはまる」ところもあるけど、知的には問題ない」といわれることもあります。

診断名は、例えば児童発達支援などの福祉サービスを利用したり、園や学校などで配慮を受けたりする時に必要な場合があります。

また、はっきりした診断名がつかなくても、「～傾向」ということを知ると、その情報をもとにいろいろな対応が取れるかもしれません。病院によっては、個別の訓練等を受けられることもあります。

医療機関で聞いた情報を生かして、日々の生活に役立ててください。

体験談



白黒ハッキリさせたくて受診したのに、医師からはあいまいな答え。『要するに、障害なんですか？そうじゃないんですか？』と医師に詰め寄った私。『お母さんは身長170センチを高いと思うか、180センチを高いと思うか、それと変わらないです。診断名にこだわらず、少しでも特性があるのなら、子どものためにできることを考えてあげたらどうですか？』との医師の言葉。目からうろこでした。息子のために今できることを精一杯やろうと決めた日でもあります。



ST（言語療法）で一日にあったことを文にして話すこと（日記のようなこと）をやってくれて、文章の組み立てや自分の行動を言葉にする力になった。

OT（作業療法）の的当て遊びは、ルールを覚えたり、的に当てて集中力を付けたり、投げ方を学べた。家でも参考になることが多く、園にも訓練の様子を伝えられたのが良かった。



「自閉症です。」と、はっきりドクターに伝えられたときは呆然としました。

「言葉が遅いね」から8ヶ月くらいでの診断で、当時「障がい」のことはほとんど知らず『自閉症は治りますか？』と聞いたことを覚えています。

ドクターから「病気ではないので治ることはありません」と伝えられてショックが強く、自宅までの間無言になったほどでした。

今思えばその日から「障がい」のことを知ることを始めた日ではありました。

はっきり言われるのは保護者としては辛く、全ての方に良いことなのかはわかりませんが、早い時期からリハビリなどの療育へ進むことをドクターよりアドバイスをいただけたことは大変良かったと思います。



自分自身、もともと「障害」ということへの抵抗感が無いので、「この時点で受容できた」とかあまり意識がない。なんとなくユニークだなあ。ああ、やっぱりそういう理由があったんだね、という感じ。とは言え、よかれと思って行った数々の教室やイベントなどで「できない我が子」を見て辛かった。「なんでできないの!？」という言葉を目の当たりにして投げつけてしまうことも正直あった（私も人間ですから）。今思い出すと子どもに対して申し訳ない。



病院の心理セッションで、肌に触れてくれることがよかった。抑揚のある話しかけと大きさにほめてくれることがよかった。



園で座ってられない、活動に参加できないなどがあり、年長の時から薬の服用を始めました。始めてから1カ月半ほど経った頃、短い時間ですが座っていられたり、といった様子が見られるようになりました。



小学校に入ってから、集中力が続かないことや学習の難しさがあり、2年生から薬の服用を始めました。人の話を聞くことができたり、学習にも前向きな姿勢が見られるようになりました。少し表情も柔らかくなってきた気がします。



薬が効くかもと試したが、食欲不振など気になる副作用が出てきて中止した。お医者さんにも「薬はお手伝いするだけ、本人の気持ちと環境を整えることがまず大事」と言われたけど、周囲は「飲まないの?」と言ってきて腹が立った。こっちも「薬が効いたら良かったのに」と思う時もあるが、大声で叱らないようにしたり小さいことでも具体的に伝えるとき、本人への対応と環境を整えることを心掛けている。

05 入園について

「うちの子は～の傾向があるって言われたけど、普通の園に行けるのかな?」「発達がゆっくりで凸凹もあるって言われたけど、復職するから長時間預かってくれるところがいい」など、入園についての心配やニーズは、ご家庭により様々です。

お子さんを預かる場所としてすぐに思い浮かぶのは、「こども園」「幼稚園」「保育園」だと思います。その他、「小規模保育施設」等も近年は増えてきました。また、診断がついて所定の手続きを経て利用できる「児童発達支援」など、専門的な支援を受けられる場所もあり、通常の園に通いながら児童発達支援を併行して利用するお子さんもいます。(児童発達支援事業所については24ページの「07 児童発達支援事業所とは」をご覧ください)

それぞれの特徴がありますので、詳しくは以下と次ページをご覧ください。

認定こども園

認定こども園は、幼稚園と保育園の機能や特長を併せ持ち、地域の子育て支援も行う教育・保育施設です。お子さんの年齢と保育の必要性に応じた認定(1号～3号のいずれか)を受けるための申請が必要となります。公立と私立があります。

- | | |
|------|---|
| 1号認定 | 満3歳以上、4時間程度、幼稚園のような利用 |
| 2号認定 | 満3歳以上、「保育を必要とする事由」に該当すること、上限11時間又は8時間、保育園のような利用 |
| 3号認定 | 満3歳未満、「保育を必要とする事由」に該当すること、上限11時間又は8時間、保育園のような利用 |

満3歳以上のお子さんは、1号認定のお子さんも2号認定のお子さんも、それぞれ利用時間に違いはありますが、一緒に過ごして教育や保育を受けられます。「保育を必要とする事由」は、各園にある入園申し込みのしおりでご確認ください。

認定こども園、保育園、幼稚園等の一日の流れ

	7:00	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
認定 こども園	1号 認定	8:30 登園	9:00～11:30 教育活動	11:30 お昼ご飯	13:00 降園準備	降園	14:00	14:00	15:00	～16:30 順次降園 (保育短時間)	～18:00 順次降園 (保育標準時間)	
	2号 認定	7:00 開園	9:00～11:30 教育・保育活動	11:30 お昼ご飯	13:00 おひるね	休憩	14:00	14:00	15:00	～16:30 順次降園 (保育短時間)	～18:00 順次降園 (保育標準時間)	
	3号 認定	8:30 登園	9:00～11:30 保育活動	11:30 お昼ご飯	13:00 おひるね	休憩	14:00	14:00	15:00	～16:30 順次降園 (保育短時間)	～18:00 順次降園 (保育標準時間)	
保育園・ 小規模・ 事業所内 保育施設等	2号 3号 認定	7:00～9:00 登園 健康観察	10:00 おやつ	11:30～12:30 お昼ご飯	12:30～15:00 おひるね	15:00 おやつ 健康観察 自由遊びなど	16:30	16:30	15:00	～16:30 順次降園 (保育短時間)	～18:00 順次降園 (保育標準時間)	
			10:15～11:30 保育活動									
幼稚園		8:00～9:00 登園	9:00～11:30 教育活動	11:30～12:30 お昼ごはん (お弁当又は給食)	13:30～14:00 帰りの準備	降園	14:00	14:00	15:00	～16:30 順次降園 (保育短時間)	～18:00 順次降園 (保育標準時間)	

保育園

0～5歳のお子さんを対象として、就労などのために、ご家庭で保育のできない保護者に代わって保育を行う施設です。家庭や地域社会とともに協力し合いながら、豊かな人間性を持った子どもを育てます。

幼稚園

3～5歳のお子さんを対象に学校としての教育を行い、基本的な生活習慣、豊かな心情や思考力を養い、意欲や思いやりのある幼児を育てます。

小規模保育施設

少人数（定員6名～19名）の0～2歳のお子さんを対象に、家庭に近い雰囲気のもと、きめ細かな保育を行います。

事業所内保育施設

企業や病院内に設置された保育施設で、従業員以外の子どもに対しても預かり保育を行います。（従業員の子どものみを対象とする保育施設は、認可外保育施設に分類されます。）

認可外保育施設

市が認定した保育施設以外の保育施設を総称して認可外保育施設といいます。認可保育所と同じく通常の保育を行う施設、一時預かりを主とする施設、企業や病院などの従業員の子どものみを対象としたものなど、様々な形態があります。

※入園申し込みについては、毎年「広報しずおか 静岡気分9月号」に掲載されています。詳細については、各区の子育て支援課にお問い合わせください。



お問い合わせ先

- 【葵区】 葵福祉事務所 子育て支援課 入園係
静岡庁舎新館2階 電話：054-221-1095
- 【駿河区】 駿河福祉事務所 子育て支援課 入園係
駿河区役所2階 電話：054-287-8673
- 【清水区】 清水福祉事務所 子育て支援課 入園係
清水庁舎1階 電話：054-354-2358

園でどんな支援が受けられるの？

公立こども園では、集団保育が可能であり、障がいや発達に気になるところのあるお子さんを受け入れ可能な範囲で受け付けています。各歳児、入園予定数（継続児を含む）のおおむね15%の特別枠を設け、各園で受け入れをしています。また、集団保育が可能な医療的ケア児の入園を受け付けています。

4月からの入園を希望する場合、前年の10月上旬に入園申し込みが必要になりますが、満3歳以上で集団生活するうえで配慮が必要なお子さんの場合、事前に園での体験保育及び医師による面接の実施などが必要となりますので、各市立認定こども園、又は各区子育て支援課入園係までお早めにご相談ください。園の入園予定数の状況によっては、希望園での受け入れができない場合があります。また、面接等による判断の結果、受け入れができない場合があります。

2歳以下のお子さんは、お子さんの成長の状況や希望園の保育士配置状況等により入園が保留となる場合がありますので、あらかじめ希望園、又は各区子育て支援課までご相談ください。

私立の園については、各園にお問い合わせください。

（参考資料 2022静岡市子育てハンドブック P.43～48）

公立こども園の場合、クラス内に担任以外の支援の先生が配置されることがあります。必要に応じ、お子さんのサポートプラン（個別支援計画書）を作成し、支援をしています。私立の園の場合、各園の状況に合わせて、対応をしています。

また、専門家が園に巡回し、相談を受けることもあります。詳しくは、所属の園にお問い合わせください。

体験談



Aさん 私立幼稚園

①これは年長になってからですが、1日の予定がわかるように、毎朝先生が教室の壁に1日の予定表を書いてくれました。それを朝一緒に見て、今日はこういうことをするんだと前もって知ることが出来、落ちついて行動することができました。

②初めてのことが毎回不安で、最初から参加をすることが出来なかったのですが、運動会の練習やお遊戯などもまず皆がやっているのを見てから少しずつ参加できるように、もっていかれていました。



Bさん 私立幼稚園

市立の園では母が働く必要があり、他の療育との両立が難しく、生後間もない子供もいたことから、私立を希望しました。

個別に園に連絡を取り、入園可能か問い合わせました。何件かの園は加配が付けられず断われましたが、年一回の診断書があれば加配が可能と説明のあった園に入園。入園当初は立ち歩きがありましたが、椅子などで活動時の居場所を具体的に定めたり、絵カードで見通しをつきやすくする等、視覚支援にも積極的な園でした。加配の先生には、活動時の切替、手の不器用さのフォローなどを個別に受けました。どんな様子で園生活を送れているか、どのような支援をしているかを、逐一親に伝えてくださり、就学決定の際にも大変参考になりました。

☆公立こども園加配の体験談は66ページの「マイストーリー3 知的支援学級 小学4年生」を参照ください。

ペアレントメンターのつぶやき

あるある

幼稚園・保育園編

入園したばかりの頃は、教室に着いて母が帰ろうとすると、母への後追いが強かったが、慣れた途端、担任と話しているのに教室から押し出されるようになった。

周りの事はお構い無しだったのに、独り言で突然友達の名前を言ったので、母は舞い上がり、夕飯を作る手が止まった。

参観で、男の先生にもたれかかってまったりしている姿を見て、父に対してまったりする事は無かったので、信頼を得るコツを聞きたくなった。

園の夏祭りで、ヨーヨーを浮かべてあるタライを見つけ、実家で水遊びをしたタライと同じ物だったため、服を脱ぎながら近づいて行ったので慌てて捕まえた。

運動会で、親子で輪っかのゴムに入り、電車になったの障害物競走、子供が爆走して母との間が2メートルくらいあいてしまいゴムが切れてしまうかと思い母も必死で走り、笑いをとった。

入園式の写真は、うちの子だけ捕獲状態で抱えられている姿で写っていたが、卒園式の写真は1人で座っている写真。

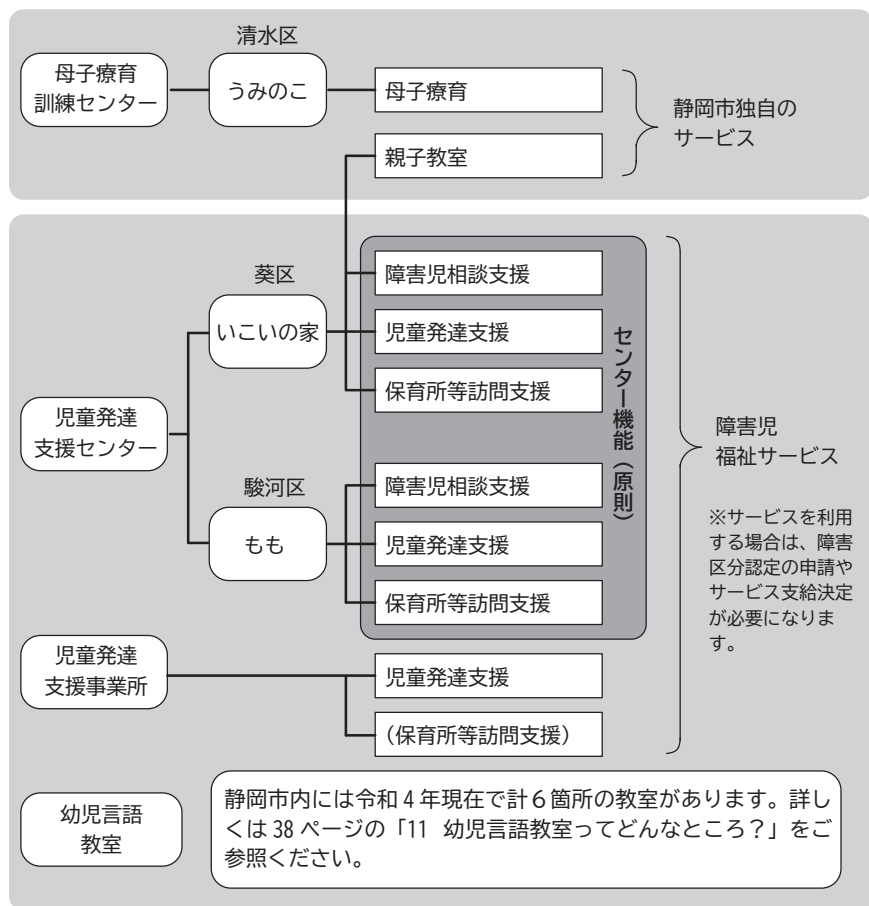
保育園の生活発表会当日、舞台から「ちゃあちゃん（お母さん）来てよ！」の息子の声。私も舞台上がって一緒にお遊戯。今その時の写真を見ると、何故かほっこり。

ホテルの大浴場に入るとき、浴場で付き添う係、脱衣所で待機する係（裸のまま廊下まで走って行ったときに追いかけるため）を配置した。

障子の無い部屋を予約した。

診断がついているお子さんは、所定の手続きを行うと「障害児福祉サービス」を受けることができます。

診断がつかなくても利用できるサービスとしては、「うみのこセンター母子療育」や「いこいの家親子教室」があります。また、静岡市には言葉の遅れのある就学前のお子さんを対象とした「幼児言語教室」もあります。詳しくは24ページの「07 児童発達支援事業所とは」以降をご覧ください。



「療育」「発達支援」って何？



以前は「療育」というと「病院で行う粗大運動・微細運動・言語などの訓練」を指すことが多かったのですが、現在ではそれに加えて「児童発達支援センターまたは事業所」で行うものも指しています。

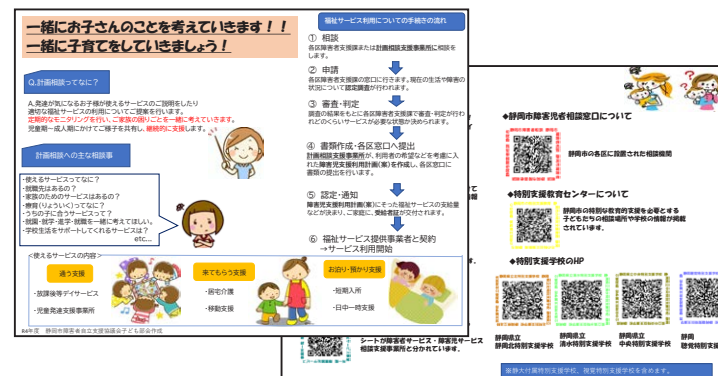
平成26年に厚生労働省で行われた「第3回障害児支援の在り方に関する検討会」で「全国児童発達支援協議会」から『療育』という言葉より、『発達支援』という言葉を使用してほしいという意見が出されました。その後、「児童発達支援事業所」の整備が進み、「発達支援」という言葉が使われることが多くなってきました。

「発達支援」には「本人だけでなく、家族や園なども含めた支援」が含まれます。「児童発達支援センター」「児童発達支援事業所」の中には、園への訪問をしてくれるところもあります。「児童発達支援」については24ページの「07 児童発達支援事業所とは」をご覧ください。

児童発達支援センター・児童発達支援事業所は、「障害児福祉サービス」の一つです。障害児福祉サービスを使うには、利用したい事業所を探して体験・見学をすると同時に、利用に必要な書類を書いてもらうために、実際利用する事業所とは別に「指定障害児相談支援事業所（通称：計画相談支援事業所）」にも相談する必要があります。

詳しくは下のチラシ（令和4年度静岡市障害者自立支援協議会子ども部会作成）の1ページ目をご覧ください。利用の手順をご確認ください。本冊子24・25、48ページもご参照ください。サービスを提供する事業所や計画相談支援事業所を探す際は2ページ目の「障害福祉サービス事業所検索「WAMNET」や「障害福祉サービス事業所一覧」を参考にしてください。

<https://www.shssc.jp/images/293.pdf>



07 児童発達支援事業所とは

児童発達支援事業所・児童発達支援センター

「児童発達支援事業所・児童発達支援センター」は、どちらも「主に、就学前の発達が気になる子どもや運動発達・言葉の遅れ等で療育が必要な子どもたちが、健やかな成長・発達をしていくよう支援する、療育・保育を行う施設」です。（制度上は「18歳までのお子さんが対象となる」ため、「高校に行っていない16～18歳の子ども」も対象となります。）

市内の事業所は静岡県ホームページ内「障害福祉サービス事業所・障害者支援施設等の紹介」→「市内障害福祉関連事業所一覧」をご覧ください。サービス利用に必要な「障害児支援利用計画」を作成する「指定障害児相談支援事業所」の情報も掲載されています。

また、さらに詳しい内容を記した一覧を各区子育て支援課、障害者支援課でもお配りしています。一覧には、各事業所の定員や特徴、事業所からのメッセージが掲載されています。

通所する際には各区の「障害者支援課」へ申請し、「障害児通所受給者証」を発行してもらう必要があります。受給者証の発行には所定の手続きが必要となりますので、詳しくは下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先

各福祉事務所 障害者支援課（給付係）

葵区 054-221-1589

駿河区 054-287-8690

清水区 054-354-2168

体験談



小集団（幼稚園入園前2歳から卒園まで利用）

2歳過ぎの頃、ちょうど新規の事業所ができたので、幼稚園卒園まで通いました。幼稚園に通い始めてからは、幼稚園が休みの日と夏休みなどの長期休みのみになりましたが、この児発のおかげで「椅子に座って先生の話を聞く」「親以外の大人とのやり取りを楽しむ」「興味のあるおもちゃや遊びの幅を広げる」などが、先生方の丁寧なかかわりのおかげで少しずつ出来

るようになったので、感謝の言葉しかありません。親が日々の生活の中で困っていることに、先生方が寄り添って話を聞いてくれたり、「こうしたら良いよ」のアドバイスをくれたりしたのでそれも有り難かったです。



小集団（入園前、週5日利用 ⇒ 入園後、週1回土曜日利用）

入園前に、スケジュール通りに過ごすこと、母子分離や身近自立を目標に、平日週5日・3歳頃から利用しました。癇癪が起きた時の対応や、排泄の促し方等、親からの相談にも多くのってもらい、ペアレントトレーニングの要素もありました。子供の成長に伴い悩みも変わってくるので、すぐに相談できる場所を持てたことは心強かったです。入園後は週一回の利用となりましたが、就学相談会や他の親御さんとの交流会等、情報を得る機会も設けられていました。



児童発達事業所（個別 1回45分 週1回）

就学に向けて、週1回45分間、個別に支援を受けました。学習内容は、普段の様子や心配な点を親から聞き取りした上で、子供が少し頑張れば出来そうなことを先生が提案してくれました。うちの子供は、ひらがな学習や「ちえ」の学習、ソーシャルスキルを学び、ある程度座って活動することも目標でした。

親はマジックミラー越しに見学することもでき、先生から直接、授業の様子を聞けましたし、月に1回、子供の様子を書面で貰いました。出来ない所に注目するのではなく、いつもいい所に着目して話してくれました。こういった所が長所なのか、親の考え方を考えるきっかけにもなりました。

また、先生は固定ではなく、5人ほどが順番に担当してくださったので、独りに固執しがちな子供の特性に配慮された仕組みになっていました。また、この事業所は放課後等デイサービスもやっていたので、小学校入学後は、そのまま利用し、移行もスムーズでした。



児童発達支援に通うまで、偏食がひどく、一時期は、白い食べ物しか食わず、野菜嫌いであらうじて食べられる野菜？は、海苔と納豆のみでした。しかし、給食指導で、かなり偏食が改善し、家庭でも野菜ジュースも飲めるようになり、小学校高学年では、たいていの野菜も食べられるようになりました。

※ 48 ページの「16 放課後等デイサービスって何？」の体験談もご覧ください。

ペアレントメンターが
インタビューしてきました！



通園（児童発達支援）

おおむね年少以上の年齢のお子さんが、単独で通う事業です。

①1クラスの園児人数

8～9人。クラス数6クラス。
運動面や医療的ケアが必要なお子さん
のクラス、成長のゆっくりなお子
さん・知的・情緒・多動等のお子さ
んのクラスなどに分かれています。



②1クラスのスタッフ人数

担任3人+α（ケアが必要なクラスには、看護師各1人も配置）

③全体の園児人数

定員50人（うち、並行通園児10人程度・年度による）

④利用するときに必要な公的申請

受給者証が必要です。各区役所の障害者支援課で手続きを行います。
療育手帳等の障害者手帳・医師の診断書のどちらかが必要です。
（親子教室は公的な申請は必要ありません）

⑤日中の預かり時間

8時45分～15時00分

※通院・兄弟のことなどで預かりが必要な場合延長もあります。

（8時30分～17時00分の時間内 追加料金はなし・送迎は自家通園のみ）

1日の流れ

08:30	通園バス・ワゴン車（迎）出発	自家通園児登園
10:00	通園バス着 水分補給 午前の遊び	
11:30	給食 歯磨き トイレ	
12:30	休息 午睡	
13:30	連絡ノート トイレ	
14:00	おやつ 午後の遊び	
14:40	帰りの会	
15:00	通園バス・ワゴン車（送）出発	自家通園児降園

⑥年間計画

入園式、参観日、季節の行事など、年間を通じて行います。詳しくは HP
（<http://www.ikoinoie-kodomo.jp/service/>）をご覧ください。

⑦就学準備

年長の5月に特別支援教育センターによる専門調査を受けたり、学校見学（夏
から秋の間）、体験入学（支援学校は指定日、支援級は個人日程で決定後体験）
を受けられます。

また、特別支援教育センターによる説明会や父母の会主催の「先輩保護者か
らの支援学校・支援級・こども園などのお話」などで情報を得ることもでき
ます。

⑧進路は？

単独通園：静岡北特別支援学校・清水特別支援学校・静岡大学教育学部附属
特別支援学校・静岡中央特別支援学校・公立小の知的支援級・情緒支援級な
ど（就学前に、公立こども園・保育園・幼稚園等に通園する子もいます）
親子教室：半数程度が私立幼稚園・公立こども園・その他保育園など

⑨送迎バスについて

葵区・駿河区 各1台 清水区2台で運行しています。

親子教室

集団に入る前の発達に心配のあるこどもを対象にしています。親子でいろいろな遊びを経験し、より良い親子関係をつくるとともに、友だちと交流することで社会性を育てることを目的に開催します。



- ※ 親子教室の利用には、受給者証は必要ありません。保護者から直接いこいの家にお電話でお申し込みください。
- ※ すでに保育園や他の児童発達支援事業所を利用されている方は利用できません。
- ※ 送迎はありません。

開催曜日・時間（令和4年度現在）

ミニひまわり（満2歳のグループ）

対象：発達凸凹・ことばの遅れ・多動・かんしゃく他

時期により1～2クラス。各7名

火曜日・金曜日

前半 9時30分～10時30分。後半10時45分～11時45分

たんぼぼ（満3歳のグループ）

対象：未歩行または医療的ケアが必要な子

1クラス7人程度。

火曜日 10時～12時30分

給食1食350円 給食はこどもの食事のみ

ひまわり（満3歳のグループ）

対象：発達凸凹・ことばの遅れ・多動・かんしゃく他

1クラス7人程度

水曜日・木曜日

前半 9時30分～10時45分。後半11時00分～12時40分

後半はこどものみ給食あり。月で前後入れ替えあり

給食1食350円

※その他、保育所等訪問も行い、他の園との連携・情報共有も行っています。利用には手続きが必要ですので、詳しくはお問い合わせください。

体験談



障がいのある子どもとの関わり方に悩んでいましたが、入園後は相談できる先生や保護者がいて、気持ちが軽くなりました。こどもも友達とコミュニケーションをとるようになり嬉しかったです。

運動会では赤チーム・白チームにわかれ周りを気にせず楽しみました。卒園後も保護者同士のかかわりができて、就学・就労・子育ての悩みを聞いてもらえる人がいることが私の中では大きいです。

いこいの家で月に1回ボランティアの方の散髪があり、散髪室の特殊な鏡や椅子を体験して経験を積めたことがとても役に立ちました。

こだわりや音の過敏が強い子どものため心配でしたが、クラスも少人数で先生も多く、手厚くきめ細やかな指導で園では子どもが落ち着いて過ごせました。おかげ様で親も安心して預けることができました。

着替え・排泄・食事の仕方等、日常生活において必要なことをその子どもに合わせて対応してもらえるので、障がいがある子どもでもできることが増えて嬉しかったです。

お問い合わせ先

静岡市心身障害児福祉センター いこいの家

運営	社会福祉法人恩賜財団済生会支部静岡県済生会
住所	〒420-0846 静岡市葵区城東町24番1号
電話	054-249-3190
FAX	054-249-3191
URL	http://www.ikoinoie-kodomo.jp/

ペアレントメンターが
インタビューしてきました！



日常生活における基本的な動作や遊び、集団生活への適応やことば・情緒等の発達を支援しています。
※単独通園のみです。親子教室はありません。



①1クラスの園児人数

◎5クラス 各8～12人

障がいの種類、特性、年齢を配慮して振り分けています。

◎未満児現在3名、年長児現在17名

◎もものみ通園と並行通園の比率はほぼ半々

※防災訓練や散歩等の時に他クラスと交流する時あり

②1クラスのスタッフ人数

基本3名＋補助のスタッフ（クラスの人数により変動）

看護師1名、理学療法士1名

③全体の園児人数

74名が契約 一日平均50～53人

葵区、駿河区、清水区から来所

④利用する時に必要な公的申請は？

◎受給者証が必要です。

各区役所の障害者支援課で手続きを行います。療育手帳等の障害者手帳・医師の診断書のどちらかが必要です。

⑤日中の預かり時間（延長保育はあるか？）

延長保育あり（実費負担必要）

・基本保育時間…9時～17時

・延長保育…8時～9時、17時～19時

※個別支援計画で事前申請し、利用できる。現在10～12人が利用

⑥年間計画

入園式・卒園式・参観会・遠足・季節の行事などさまざまな行事があります。
詳しくはお問い合わせください。

⑦就学準備

就学説明会（年中最後に開催）を行ったり、就学担当のスタッフが個別の見学希望の申し出などに対応しています。

令和4年度はまだ卒園児が少ないので、先輩保護者のおはなし会は、今後やっていきたいと考えています。

⑧進路は？

今年の卒園生は20人くらい

1／3が支援学校、残りの2／3が支援学級、2人くらいが通常級

⑨送迎バスについて

自宅までの送迎をすべての区で行っています。

チャイルドシート、ジュニアシートを完備し、運転手と保育士1名が必ず同乗します。

延長保育の人は自家通園です。

⑩並行通園のお子さんに対して、園との連携は？

保育所等訪問支援を行っています。

保育所等訪問支援を利用していないお子さんは、電話連絡をして様子を聞いたりしています。

もものスタッフ、園の先生方双方から、お互いの見学をしてみたいという話が出ているので、コロナが落ち着けば、できる範囲で対応していきたいと考えています。

⑪その他、アピールポイント

自宅送迎があることと、延長保育に対応していることです。





体験談



3年間ももにお世話になっております。

入園するにあたり施設見学や説明会などで伺ったところ、先生や関係者の皆さんの気遣い、優しさにふれ、大変な時期にあった私を安心させてくれました。

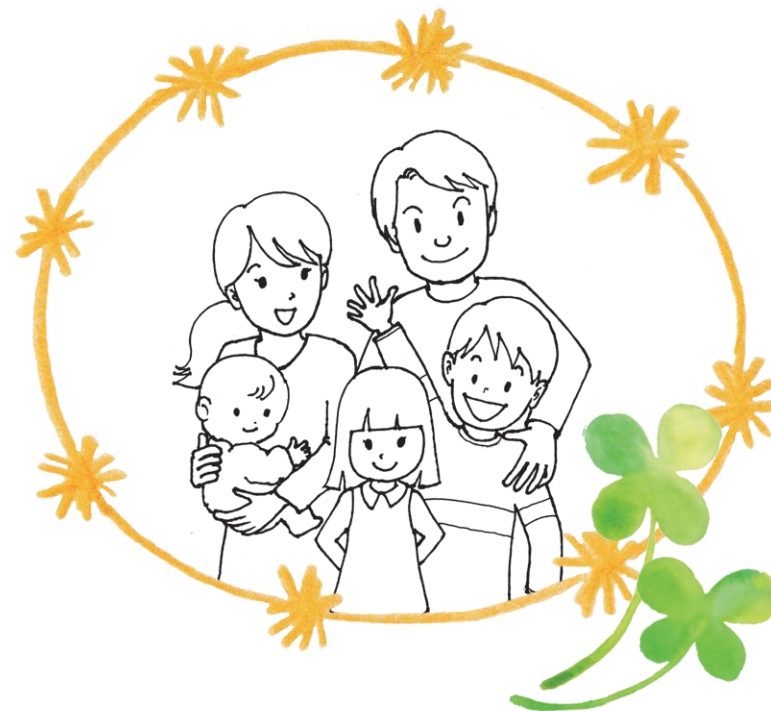
入園1年目はまだ言葉も出ず、走り回ったり、落ち着きが無かったりしたのですが、毎日の生活帳のやり取りから日々の様子が感じられ、また、作ってくる工作に嬉しく思いました。

2年目は大変熱心な担任で、お茶をなかなか飲まない子に専用のシールブックを用意してくれて、「お茶を飲んだら好きなキャラクターのシールを貼る」といったことをしてくれました。また、この年は初めての遠足があり、保護者との交流が出来たり、クラスごとダンスをしたり、鬼ごっこをしたり、普段の姿とは違う一面を見られました。

3年目を迎え、生徒ひとりひとりにあった指導を日々考えてくれるすごく熱心な先生たちばかりです。ももが大好きで、最近はお友達の名前も出てきて、「今日は何した。」「お当番だったよ。」の会話も楽しくなっています。

送迎の黄色いバスもお気に入り、運転手さんもおはようと優しく挨拶してくれます。

まもなく卒業ですが、進路も早い時期から面談など行っていたので、スムーズに運ぶことができました。私としては本当に成長がわかり、楽しく登園する子供の姿が見られ、自分も成長でき良かったと思います。



お問い合わせ先

児童発達支援センター もも

運営 社会福祉法人 花園会
住所 〒422-8033 静岡市駿河区登呂3丁目2番1号
電話 054-283-2850
URL <https://hanazonokai.com/facility/momo/index.html>

ペアレントメンターが
インタビューしてきました！



「発達が気になる乳幼児の早期発見、早期療育のための療育相談の他、心身機能、基本的な生活習慣の確立への支援援助及び保護者に対する相談、援助を通して乳幼児の健全育成を図る。」ことを目的にしています。

うみのこセンターは児童発達支援センターではありません。種別は「母子療育訓練センター」という、静岡市独自のサービスです。親子で利用します。お父さんやおじいちゃん、おばあちゃんでも利用可能です。

兄弟がいるときはどうしたらいいの？

お子さん単独の預かりは行いません。母と子の1対1の大切な時間と考えていますが、やむをえないこともありますのでご相談ください。

利用料 負担なし ※親の会費として、月100円いただいています。

①1クラスの園児人数

現在は5～10人。基本的に定員はありませんが、スタッフ1名につきの対応人数が1～2名となっています。

0歳児や母親の都合で個別対応もあります。

②1クラスのスタッフ人数

基本的に職員6～7名が、それぞれのグループの人数に合わせて入ります。

③全体の園児人数

149名が登録（令和4年4月現在）

1、2歳児19人、3歳児35人、4歳児45人、5歳児32人
状況により個別対応や経過観察となる場合もあります。

④利用する時に必要な申請は？

- ・受給者証・療育手帳等は必要ありません。
- ・通所希望の場合はうみのこでの面接申請が必要です。

⑤利用時間【月～金曜日 午前9時～午後4時】

1回につき、おおむね1時間から1時間半程度の活動です。

午前 10:00 から 11:30（1～2歳児）

09:45 から 11:15（3歳児）

午後 14:00 から 15:30（4歳児、5歳児）

⑥年間計画

オリエンテーション、歳児別の母親教室、父親教室、ペアレントトレーニング（ビデオ）、みんなでほっとする会、親の会交流会、入園・就学についての説明会などさまざまな活動があります。詳しくはお問い合わせください。

- ・歳児別の母親教室では、入園・就学に向けた情報提供や、母親同士の交流などを行っています。
- ・父親教室は、講師の先生を招いてお父さん向けの講演会を行います。
- ・親の会の事業にも協力しています。
- ・ペアレントトレーニング（ビデオ）は、お子さんへの関わり方を学んでもらう機会です。はじめのうちに覚えてもらうのがオススメです。
- ・みんなでほっとする会は、お母さんのおしゃべり会です。2ヵ月に1回テーマを決めて話します。先輩お母さんのお話が聞ける月もあります。

⑦入園支援

新入園児母親教室、入園説明会等で入園に向けての支援を行います。

7月 入園先について

8月 入園説明会（子育て支援課）

9月 臨床発達心理士による講演（発達の視点から見た子どもの捉え方、お母さん同士のグループワーク）

3月 入園を控えて

（次年度）5月 入園して

⑧就学支援

年長児母親教室や支援学級見学、就学説明会等で就学に向けての支援を行います。

4月 就学の基礎知識について

6月 支援学級見学

7月 就学説明会（特別支援教育センター）

8月 先輩お母さんの体験談（どんなポイントで就学先を決めたか、今はどんな風に生活しているか等）先輩お母さん4人（通常学級、支援学級知的、支援学級自閉症・情緒、特別支援学校）

9月 臨床発達心理士による講演（就学に向けての心構え、お母さん同士のグループワーク）

10月 まとめ（就学時健康診断について、入学にむけて学校の誰にどのタイミングでお子さんについて伝えていくのか等）他

⑨進路は？

（令和3年度卒園生の比率）

13%が特別支援学校

29%が支援学級（知的）、13%が支援学級（自閉症・情緒）

42%が通常学級

⑩送迎は？

送迎はありません。全区から通園可能です。自家用車（駐車場あり）、または公共交通機関をご利用ください。

⑪園との連携は？

6月から8月に園訪問を行い、お子さんについての情報共有を行います。（8月以降はその都度対応）

園の先生方がお子さんのうみのこでの活動を見学したい場合には、随時応じています。お子さんに合った環境整備の仕方や指示の伝え方を実際に見ていただくことができます。

お子さんが発達検査を受ける場合、必要に応じて事前に園での様子について聞き取りをします。当日は保護者の方からのご希望があれば園の先生にも同席していただくことがあります。結果については文書にまとめて保護者に報告をした後、園にも報告をさせていただきます。

⑫その他、アピールポイント

・うみのこセンターと、園や児童発達支援事業所の違いは親子で一緒に通う点です。活動でのお子さんの現れを通して保護者の方と一緒に成長を確認したり、かわり方を考えたりしていきます。

・保護者支援を大切にしています。不安や悩みが軽減され、お母さんなりの子育てができるようにお手伝いをしていきます。保護者の方からの相談に対して十分に話を聞き、対応できるよう心掛けています。担当制となっておりますが、どのスタッフでも対応できるように、皆で考え、情報を共有しています。

体験談



年少から通いましたが、よかった点は園との連携をとっていただけたことです。園ではどういう風にかかわっていったらよいかわからなかったと思います。園の先生がうみのこに見学に来てくれたこともありました。とてもその先生が活動に興味をもってくださったのが大変ありがたかったです。うみのこのお母さん同士が仲良くなったこともよかったです。卒園したあとにも常に相談場所を確保し、そこのお母さんたちと悩みを共有しながら子育てをすることのきっかけになったと思っています。



自宅では見られない、お友達や集団での様子を先生方と私と直接見る事で「今の子どもの様子」を肌で感じられ、先生方も「今のうちの子」のどんな事でも気兼ねなく話に耳を傾けてくれた事で「一人で悩まなくていい」と感じられる場所でした。

お母さん達と悩みや情報を共有したり、不安に寄り添ってもらって、就学前までの時間のかけがえのない居場所となりました。

お問い合わせ先

静岡市清水うみのこセンター

運営	社会福祉法人 静岡市しみず社会福祉事業団
住所	〒424-0905 静岡市清水区駒越西 2-10-10
電話	054-335-1148（直通）
URL	http://www.shimizu-294.jp/facility/uminoko.html
メール	shimizu-uminoko@po4.across.or.jp

11 幼児言語教室ってどんなところ？

子どもの、ことばや発達の相談・指導をするところです。診断は不要です。

どんな子が通うの？

小学校入学前のお子さんです。

- ① 発音が気になる子
(赤ちゃん言葉、正しく発音できない「さかな→たかな」)
- ② 吃音が気になる子(言葉を繰り返す・伸ばす・出にくい)
- ③ ことばの発達が気になる子
(ことばの数が少ない、ことばがつかない、会話ができない)

相談したいときはどうしたらよいの？

各幼児言語教室へ直接電話します。その後相談に行きます。

幼児言語教室があるところ(直通電話)

静岡市特別支援教育センター内	(054-252-3595)
麻機小学校内	(054-245-0767)
南部小学校内	(054-283-1511)
川原小学校内	(054-259-5922)
清水浜田小学校内	(054-353-6197)
清水袖師小学校内	(054-367-7140)

どんな指導ですか？

- ・個々に合わせて、ことばの発達を促す。
- ・聞く力を育てる → 正しい発音・コミュニケーション
- ・話をする楽しさを体験する。
- ・グループの活動で社会性を育てる。

個別指導&グループなどの形態や回数はお子さんの様子や課題に合ったものを決めます。

体験談



同じ思いのお母さんと友達になれた。
子どもも楽しんで参加できて、行くのを楽しみにしていた。

言葉が遅く、また出てからも構音障害があり不安の日々でしたが、私にも子供にも寄り添い指導くださり、通級に行く段取りも一緒に考えてくれました。

幼稚園を早退しなければならないため、お迎え時、お友達から「何しに行くの？」と聞かれ、説明が難しかった。

年長児の終わりごろは、ランドセルを持って行って「学校ごっこ」のように実際のあいさつや学校で行うことを教えてくれて、とてもよかった。

前半が個別、後半が5名までの小グループでした。月に2回ほど、園を早退して通いました。前半は、知恵の課題をマンツーマンで取り組み、保護者は小窓から様子を観察しました。後半はルール説明を聞いてサーキット運動やゲーム等を小グループで行いました。担当の先生が一人づつ付いてフォローしてくださいました。最後には保護者への総評の時間もあり、良かった点、課題のある所の説明がありました。

どんな配慮を小学校で受けたらいいのか、具体的なアドバイスを貰いました。



12 就学について

静岡市の就学支援（リーフレット）より引用

<https://www.city.shizuoka.lg.jp/documents/2267/230227leaflet.pdf>

1 多様な学びの場

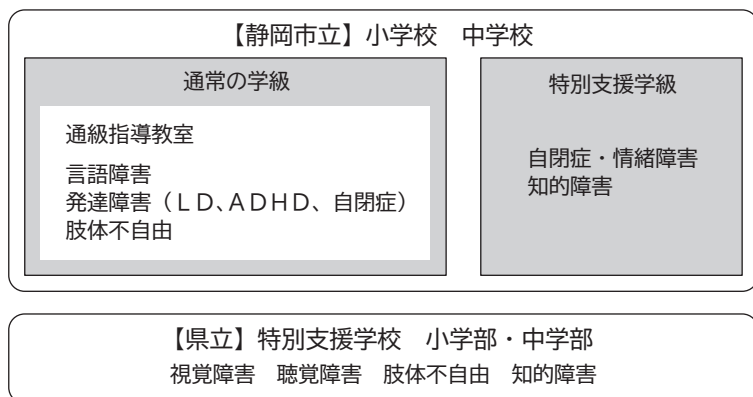
静岡市では、静岡市立の小・中学校に「特別支援学級」「通級指導教室」を設置し、きめ細かな教育を行っています。

特別支援学級には、自閉症・情緒障害学級と知的障害学級があります。自閉症・情緒障害学級では、対人関係やコミュニケーションが苦手な部分をもつお子さんが、知的障害学級では、知的発達がゆるやかで学年相応の学習に学びにくさをもつお子さんが学んでいます。

通級指導教室には、言語通級、発達通級、肢体不自由通級があります。ほとんどの授業を通常の学級で学びながら、一部、障害に応じた特別な指導を受けています。

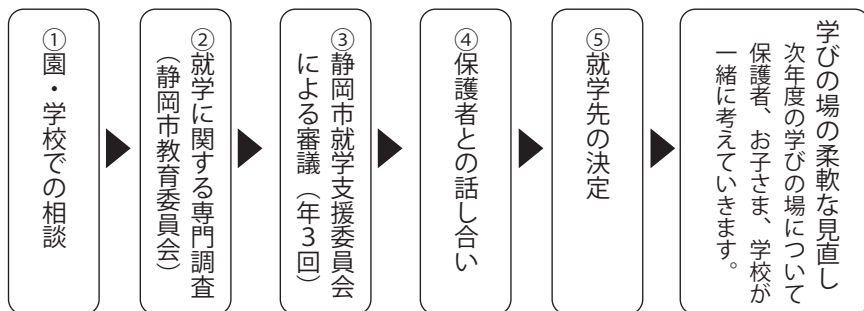
特別支援学級、通級指導教室がある静岡市立の小・中学校についての詳細は、下記のHPをご参照ください。

https://www.city.shizuoka.lg.jp/314_000001_00009.html



2 就学支援の流れ

支援を必要とするお子さんが生き生きと学ぶことができるよう就学先と一緒に考えていきます。まずは園や学校にご相談ください。



通常の学級での支援

通常の学級で個に応じた支援を受けるために、保護者は

- ・ 入学前に、学校に子どもの特性を伝えておく（就学時健診時やその後に、個別で面談してもらう）
- ・ 入学後に、担任に子どもの特性を伝える
- ・ 「移行支援計画書」や「園や幼児言語教室と一緒に作ったサポートプラン（個別の支援計画）を渡す

などしておくといでしょう。校内でお子さんの特性について情報共有してもらうことで、支援が受けやすくなります。

公立の学校には、「特別支援教育コーディネーター」という役割の先生がいます。特別支援教育コーディネーターは、

- ① 学校内の関係者や関係機関との連絡・調整
- ② 保護者に対する学校の窓口として機能することが期待される役割であり、全ての公立学校に配置されています（兼務あり）。

合理的配慮について

詳しくは「発達障害教育推進センター」HPを参照してください。

<http://cpedd.nise.go.jp/rikai/goritekihairyo/goritekihairyo>

例えば「読み書きの苦手なお子さんに対し、PCでの回答を許可する」「口頭指示での理解が苦手なお子さんに対し、視覚的な支援を付加する」「聴覚過敏のあるお子さんに対し、大きな声で対応することは避け、学級内でも適切な音量で話すよう全体指導する」などさまざまな支援がありますが、学校と話し合って合意形成を図りましょう。配慮が必要と証明されるもの（診断書など）の提出を求められる場合もあります。

お問い合わせ先

静岡市教育委員会学校教育課 特別支援教育センター

静岡市葵区一番町50番地

電話 054-255-3600

13 特別支援学級ってどんなところ？

知的障害と自閉症・情緒障害の学級があります。1学級8名が定員とされています。在籍するお子さんの人数、学年構成や特性・課題によって、学級が編成されることが多いです。そのため年度によって学級の人数が変わったりもします。他学年の子と同じ学級になることもあります。

どんな勉強をしますか？

知的障害学級はその子に合った学習内容を、その子に合ったペースで進めます。教科の学習に加え「自立活動」や「生活単元学習（教科領域を合わせた指導）」という学習で、日常生活に必要な技術や社会的なスキルを学びます。

自閉症・情緒障害学級は、基本的に通常学級と同じ内容の学習を、その子の特性や学びやすさを考慮して学びます。

通常の学級とのかかわりはありますか？

個々のお子さんの特性によって無理のない範囲で通常学級との交流があります。朝の会や、みんなと学んだ方が学びがありと判断された教科や単元は通常の学級で学ぶことがあります。また、校内行事も、その子の特性によって通常学級の中で参加することもあります。

体験談



小学校で知的障害学級に進学した保護者の話

息子は3歳のときに自閉症スペクトラムの診断を受けました。私立の幼稚園に入園し加配を受けましたが、不安感が強く、言葉もゆっくりであったので、その先の進路でも何らかの支援が必要だと親の意見は一致していました。

息子を支援してくださっている方々（主治医、幼稚園、幼児言語教室、児童発達支援事業所）に意見を求めました。トイレと着替えの身辺自立は出来ていたもので、知的障害の支援学級を選択しました。知的であれば、本人の学習進度に合わせて無理なく学校生活が送れそうだったからです。進路を選択する

にあたって、子供の出来ないことにスポットを当てられたようで親は酷くがっかりしたり悲観してしまう時期ですが、専門家や先輩お母さんに相談できたことで、その時期を乗り越えられたと思います。



小学校で自閉症・情緒障害学級を選んだ保護者の話

幼稚園の時に、年中の時は1クラス16人→年長になり1クラス27人に増えました。この時に、子供から「今まで聞こえていた先生の声が聞こえない。」と言われました。子供には運動場の声、クラスの中の声、先生の声が同じボリュームで聞こえているようでした。

この話をした時に、主治医から教えていただいたことは、「音の拾う、捨てるが私たちは自然に出来ているが、この子の特性上、集団の中で出来るようになるのは11歳か12歳ぐらいじゃないかな。」ということでした。小学校からは勉強も入ってきますし、子供の成長を考えながら、11歳か12歳には通常学級に行くことを視野に入れた支援学級選択という道を選びました。

通っていた支援学級は自立活動でのソーシャルスキルの授業が充実していたので、「こういう時はどうすれば良いか」ということを授業の中でたくさん学ぶことが出来ていました。そして、先生がいつも近くにいたので、発表も臆することなくできる環境が良かったと思います。



14 特別支援学校ってどんなところ？

以前、盲学校、ろう学校、養護学校と区別されていた学校です。基本的には、障害の種類（視覚障害、聴覚障害、肢体不自由、病弱、知的障害）ごとに分かれています。幼稚部が併設されている特別支援学校（視覚障害、聴覚障害）もあります。多くの学校は、小学部、中学部、高等部の学部が設置されています。

静岡市内の特別支援学校については、静岡県教育委員会のホームページを参照してください。

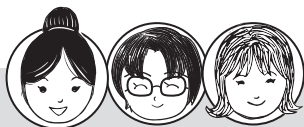
どんな勉強をしますか？

知的障害のある子ども以外は、通常の学校に準ずる教科や領域を学習し、その他に障害に基づく困難の改善を目的とした自立活動の時間があります。知的障害のある子どもの場合は、基本的な教科の学習（国語、算数・数学、音楽、体育、図工・美術、家庭科など）のほかに、障害の特性に応じた各教科等を合わせた学習（日常生活の指導、生活単元学習、作業学習など）があります。

通常の学校とのかかわりがありますか？

「交流及び共同学習」という呼び方で、地域の学校や居住地学区の学校とのかかわりがあります。他にも地域の人たちとの交流活動も取り入れています。

体験談（知的障害の支援学校について）



各クラスの人数が少なく、先生が多く手厚い
（低学年7人から8人に対して先生3人）

体調やこだわりなど、子供ごとに合った対応を必要に応じてしてもらえるので安心できる。

障がいやこだわり等で通常ではなかなか難しい校外学習（泊まりでのキャンプや修学旅行など）を友達と共に経験することが出来る。

徒競走を見て、ちゃんと走っていたなと思っていたが、先生から「スタート位置からいなくならず頑張っていました」と予想外のところを褒められ、「そこなんだ…」と学ぶ。

同じ悩みを持つ保護者と情報交換ができ、前向きになりました。生活訓練になる授業があり、普段の生活や卒業後の就労に役立つことが学べました。

中1から、バス通学練習をしました。意外なことに、乗り換えもあるのですが、母親が数回付き添いで、自力でできるようになりました。もちろん、安全のために、位置情報付きの携帯を持たせています。

特性ゆえに、新しい場所や活動は苦手ですが、事前に旅程を文字（ひらがな）で見せて、かつ、行き先観光地などのホームページの写真をさせるなどして、見通しを持てるように工夫しました。

修学旅行後、休憩場所ごとにトイレに行くよう指導されていたこともあってか、やはり必要以上にトイレに行くようになりました。

ゼロか100かの捉え方の特性から、本人自身、臨機応変に調整するのが難しいようです。

細かい教育支援計画の面談を通して、子供が高等部卒業後の夢や仕事、生活等に近づくような指導をしてもらえる。

高等部では、就職するまでのサポートが素晴らしい。高等部一年生より企業やA型・B型、生活介護等の実習体験があり、高等部3年生までに何か所か経験することが出来る。そのため、子供により合った就職を選ぶことが出来る。また、実習は就職するまでしっかり面倒をみてもらえる。

家で、よく特定の名前が出てきました。男子、女子、どちらでも当てはまる名前だったため確認すると、女の子の名前だと判明。

高校卒業式の日、校門の前で撮影会となった時、ちらちらある子を見ながら名前を言っているの、例の女の子と分かり、母が声掛けしてツーショット写真を撮ってもらいました。甘酸っぱい！



(15) 通級指導教室ってどんなところ？

通常の学級に在籍していて、学習は成立しているけれど、特定なことに苦手がある子が、それに対する指導を受けるところです。具体的には、言語の苦手（構音・吃音・言語の発達）、行動面、特定な学習面の苦手（人とかかわり方、自分の感情や行動のコントロール、読む、書く、計算する、推論する）などです。

誰でも通えるの？

まず、お子さんの通っている学校の特別支援教育コーディネーターの先生に相談しましょう。通級指導は学校の授業の一部として受けます。そのため、ご本人や家族の希望だけでなく、通っている学校の意見も必要です。発達通級は診断などが必要です。言語通級は診断は不要です。

静岡県は肢体不自由の通級（清水有度第一小）もあります。

どこにあるの？（令和6年度現在）

葵区	ことば・発達	➡番町小学校
	発達	➡西奈南小学校
	発達	➡服織小学校
駿河区	ことば	➡南部小学校
	発達	➡宮竹小学校
	ことば・発達	➡川原小学校
清水区	ことば・発達	➡清水浜田小学校
	ことば・発達	➡清水三保第二小学校
	発達	➡清水興津小学校
	肢体	➡清水有度第一小学校

中学校にはあるの？

行動面と学習面の指導の教室が各区の学校にあります。

葵区 ➡ 末広中学校
駿河区 ➡ 大里中学校 南中学校
清水区 ➡ 清水第二中学校

教室の勉強とは違うの？ ずっと通うの？

週一回程度、その子の苦手なこと（課題）を個別やグループまたは、その両方で学びます。苦手なことに対する「自分の対処法」がわかったり、できたりしたところで、学校と通級、ご本人や保護者が話し合い、退級が決まります。

體驗談



通級の先生と相談して、「夢を語る場所」と本人に伝え通い始めました。学校でのレッテルがない環境で、親子ともに安心・安全の場でした。通い始める前に、学校で一番苦手とする子が通級に通っていると知り、利用自体に躊躇していた時、通級の先生からの「苦手な子から学ぶこともあると思います。私に任せてもらいませんか？」のことで利用することを決めました。苦手なことにも向き合う姿勢も学んだ気がします。実際に、その苦手な子とは仲良しになりました。

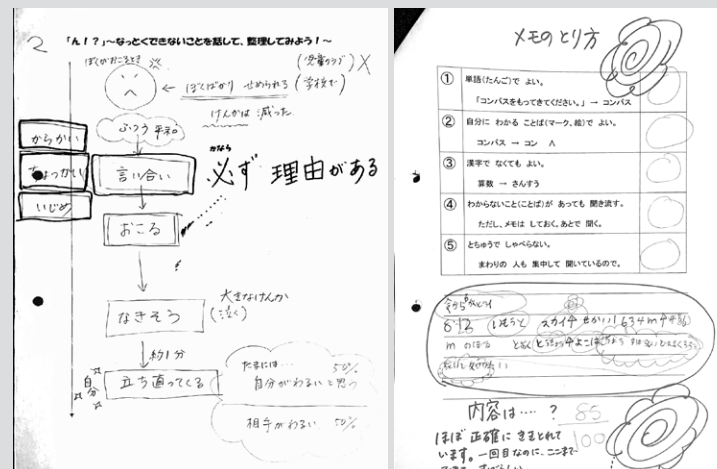


小学校と中学校で、言語指導教室・通級指導教室に通いました。小学校の時は、親が進路や学校とのつながりについて相談し、高学年で退級しました。中学校の時も、進路相談の他、指導方法や、友人関係トラブル、学校との連携について相談することができました。



清水区に初めて発達通級ができた時、一年生で入級しました。当時は先生も保護者も手探りだけど一生懸命でした。その経験が私達親子の土台を作ってくれたように思います。

こんなことをやってもらっていました↓



16 放課後等デイサービスって何？

「放課後等デイサービス」とは、小・中・高等学校等に就学している18歳までの障害のあるお子さん（授業の終了後または休業日に支援が必要と認められた方）に対して、「生活能力の向上のために必要な訓練、社会との交流の促進、その他必要な支援を提供する」施設です。放課後や長期休みに利用します。学校や自宅から送迎してくれるところもあります。「児童クラブのように集団で放課後過ごす場所」や「個別や小集団で学習やSST（ソーシャルスキルトレーニング）もやってくれるところ」など事業所によって内容は様々です。

市内の事業所は静岡市ホームページ内「障害福祉サービス事業所・障害者支援施設等の紹介」→「市内障害福祉関連事業所一覧」をご覧ください。サービス利用に必要な「障害児支援利用計画」を作成する「指定障害児相談支援事業所」の情報も掲載されています。

通所する際には各区の「障害者支援課」へ申請し、「障害児通所受給者証」を発行してもらう必要があります。受給者証の発行には所定の手続きが必要となりますので、詳しくは下記までお問い合わせください。

お問い合わせ先

各区福祉事務所 障害者支援課（給付係）

葵区	054-221-1589
駿河区	054-287-8690
清水区	054-354-2168

体験談



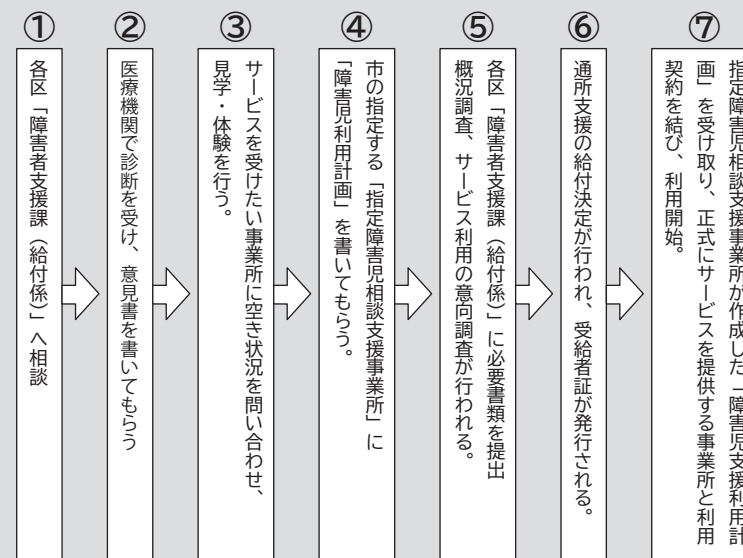
我が子は小学校入学から高等部卒業まで放課後等デイサービスを利用しました。利用した事業所は全部で7か所。並行で最多4か所利用していた時があります。小学部高学年になると、子どもの成長に合わない所から違う事業所に変えました。また、高等部になると自分で行きたいデイと行かないデイを選び、最終的には勉強系と運動系のデイサービスを楽しんで行っていました。デイサービスはいろいろ特色がありますので、口コミ等情報収集をして、自分のお子様に合う所を探してほしいです。



児童クラブに入るには不安があったので放課後等デイサービスにしました。送迎付きの所を選び、安心して私が働けるようになりました。ママじゃない時間を大切に出来て感謝です。



放課後等デイサービスを使うための手続きがよくわからず苦労しました。何度も窓口に聞いたり、知り合いに聞いたりして何とか手続きできました。かなり時間と手間がかかるので、例えば下記の図のように進めていくとスムーズな気がします。（①～④は同時期に問い合わせても良いらしいです）



ペアレントメンターからのひとこと

「児童発達支援や放課後等デイサービスなどの福祉サービスを利用したいけど、よくわからない」という声が、ペアレントメンターの相談に多く寄せられています。「どんな児童発達支援がいいかわからない」「この子に合う放デイはどこ？」などの質問も多くいただきますが、何が合うかは人それぞれです。医療機関や園・学校の先生など身近な支援者の意見を聞いたり、実際の見学や体験を通して「この子はここで笑顔で過ごせるだろうか」「必要な力を身に付けられるだろうか」を考えてみてください。

多くの情報がありすぎて迷うところですが、「1日集団の中で過ごさせたい」「週1回、個別で学習支援を受けたい」など、「集団・個別・小集団のどれにするか」「頻度」「療育内容」を決めてから探していくことをおすすめします。「どこでどんなことをやっているかわからない」場合は、各事業所のHP等を見たり「指定障害児相談支援事業所」に問い合わせて情報を得ることもできます。



中学校を卒業した後の進路は、様々にたくさんあります。似ている名前の学校もあり選択に迷うこともあるかもしれません。ここでは、学校の種類や基本的な内容についてご紹介します。

全日制高校

特徴① 1日を通して授業がおこなわれます。

- ・朝から夕方まで1日を通して授業が行われます。
- ・農業高校・工業高校など、実習が必須の高校もあります。

特徴② 学年制のため、留年があります。

- ・学年制では、その年度内に取得しなければならない単位が決まっており、一つでも単位を落とすと留年してしまいます。留年になると、その年度の単位を全て最初から取り直す必要があります。

定時制高校

- ・単位制と学年制があります。
- ・年齢制限がないため様々な年代の人が通っています。
- ・一般的には卒業に必要な単位は全日制より少なく、卒業まで4年ほどかかる傾向があります。(3年で卒業可能な学校もあります。)
- ・多くは夜間からの授業となりますが、「午前の部」「午後の部」も開講している学校もあります。
- ・夜間の部に通う人の中には、日中は仕事やアルバイトをしてから登校するケースもあるようです。時間のゆとりがあるため、学校生活と余暇(部活動、アルバイト)などを無理なく両立させたい人に好まれます。

通信制高校

特徴① 自宅学習がメイン

- ・コツコツ自分のペースで学習を進められる方は、相性が良いと思われます。

- ・通信制高校はテキストを独学で理解し、課題に取り組まなければならないため、高い理解力と計画的に課題へ取り組む能力が求められます。
- ・通信制高校には、スクーリングと呼ばれる1週間ほど集中的に登校して授業を受けるカリキュラムがあります。ずっと在宅生活を送っていると、スクーリングのカリキュラムが負担となる方もいるようです。

特徴② 単位制のため留年がない

- ・通信制高校は「単位制」のため、全日制高校のように留年はありません。そのため、自分のペースでゆっくりと学習に取り組むことが可能です。
- ・通信制コースのみを利用している方の多くは3年間では卒業単位を取得できず、5年以上通う方もいるようです。

その他

- ・通信制高校は公立と私立に分かれており、学費に大きな差があります。
- ・公立は年間5万円～10万円が目安といわれています。私立は年間25万円が目安といわれています。1年間の学費は割安ですが、卒業単位の取得までに時間がかかる方もいます。

サポート校

特徴① 通信制高校の補助機関という位置づけ

- ・サポート校とは、通信制高校の学科を独学で勉強することが困難な人を3年間で卒業できるよう、学習・生活・精神面でサポートするための機関です。
- ・個人の勉強の進捗に合わせて、細かく対応してもらう事ができるので、3年間での通信制高校卒業が目指しやすくなります。
- ・不登校・いじめ経験者へのフォロー体制があることが多いです。

特徴② 単位制のため留年がない

- ・不登校を経験してきた生徒が通いやすい環境を整えているところが多く、週1日の登校からスタートし、徐々に登校のペースを増やしていくということも可能です。
- ・いじめを経験している生徒も多く通うため、教員やカウンセラー等によるサポートが手厚いところが多いです。

その他

- ・一般的な全日制高校よりも、校則や服装などは自由度が大きい学校が多いです。

- ・サポート校は、学校教育上は学校として認められていません。高校卒業資格を取得するため、サポート校に入学した時点で連携している通信制高校へも入学したことになります。2つの高校へ在籍するため、学費は高くなります。
- ・学費は週何日登校するかなどで、料金体系が変わる傾向もあります。週5日登校する場合、年間で80万円ほどが目安といわれています。

高等専修学校

「高等専修学校」は中学校卒業後に進学でき、都道府県知事の認可を受けて設置される教育機関で、「職業若しくは实际生活に必要な能力を育成し、又は教養の向上を図ることを目的とする学校」です。

特徴① 職業技能カリキュラム

- ・以前は、主に卒業後に就職することを目的としていたため、学校によって簿記、木工、工業、服飾など専門の職業技能カリキュラムを持っていましたが、時代の変化によりパソコン技能等の習得にも比重が置かれるようになりました。
- ・サポート校よりも仕事について実践的知識、技術を学べるようになっていきます。

特徴② 技能連携制度

- ・専修学校には「技能連携制度」というものがあり、連携している通信制高校があるところが多いです。その場合、専修学校へ入学すると同時に、連携している通信制高校にも入学したことになります。高校卒業資格は、通信制高校から発行されます。
- ・2つの高校に入学したといっても、職業技能カリキュラムは通信制高校の単位に数えられるため、授業量は多くありません。どちらかというと、学科的な授業のウエイトが少ない傾向があります。
- ・この場合、2つの高校へ在籍することになるため、学費が高いことが一般的です。初年度の学費が入学金込みで70万円～90万円くらいが目安です。

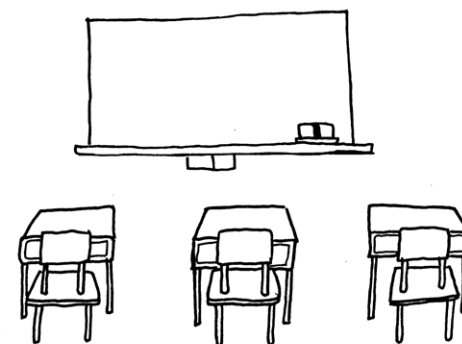
「高等専修学校」「高等専門学校」「専門学校」の違いは？

よく「高専」と略される「高等専門学校」は、中学校卒業者を対象とした専門知識を学ぶことができる5年制の高等教育機関で、「高等専修学校」とは別のものです。

また「専門学校」は高校卒業後に進学できるもので「高等専修学校」「高等専門学校」とは別のものです。

特別支援学校 高等部

詳しくは44ページの「14 特別支援学校ってどんなところ？」をご覧ください



小学生時代のエピソード

小学校低学年、いつも集合が一番最後。それなのに焦らず悠々と登場するって言われていた超「マイペースくん」。今は時間をきっちり守れる「時計くん」。

低学年の時、ゲームで負ける、競争で取り合うものが取れないとすぐ泣いた。対策として、家族内でボードゲーム真剣勝負・例えばお菓子を選ぶのも必ずジャンケンなど簡単には譲らないことで慣れさせた。

タバコを吸っている人の横を通り過ぎる時、鼻を手で押さえてあからさまに迷惑という態度だった。けど、今は『仕方ないよ。嗜好品だもの。』と言える。

息子はパーソナルスペースが広いタイプ、成長してもあまり変わらない。その分トラブルは少ないし、人を傷つけることも言わない。

小学校時代、友達にからかわれると顔を真っ赤にして怒るから「パプリカ」と呼ばれていたらしい（緑→黄色→赤に変わるから）。けど、今はその頃の自分を思い出すと恥ずかしいんだって！成長してるじゃん。

小1～5までの家庭での夕食は、こだわりで、納豆・マグロ丼しか食べなかったのも、母は常にマグロを冷凍備蓄していました。

大きい音が苦手なのに自分は急に大きい声を出すので驚かされる。

高学年の組体操について。2人組倒立中、笛の合図タイミングが分からず、急に手を離されてバランスを崩して、ケガをしてしまった。本人は笛がなるまでのカウントがわからず、鳴ってからすぐ動くのか、笛が鳴り終わってから動くのか…本人のカウントやタイミング等の確認の共有をしておくとか減るかなと思いました。

6年の担任の先生はベテランで、息子達は教員生活最後の教え子でした。中学受験を迷っていた時、「これからの教育はできることを伸ばすことに力を入れていく。」と息子の中学受験を後押ししてくれました。

中学生時代のエピソード

急な雨で傘が1本しかない時、自分だけさして行ってしまい、付き添いは濡れる。

遠出の時は、非常用携帯トイレを持って行った。

修学旅行の時も移動中に見る本など持って行った。

忘れ物をしない対策なのか、ほぼ全ての教科書をリュックに入れて通学。めちゃくちゃ重い。家族内で二宮金次郎と呼ばれていた。

母が自分の資格の勉強に注力しすぎて、声かけするのをしなかったら、始業式を忘れて行かなかった。母凹む。

修学旅行のエピソード。グループ自由行動にて偶数人グループでなかったのも1人になってしまい、担当タクシー運転手さんとまわることに。それはそれで楽しかったらしい。

高校生時代のエピソード

特性について自己理解した高2の夏。息子がかけてくれた言葉。『お母さん悩んでいたでしょ？どうして言ってくれなかったの？言ってくれたら僕も一緒に悩めたよ。』

特性理解も手伝ってか、大学の学部選択は譲らなかった。『好きな学問でない、大学行かなくなっちゃう気がする。それに大学って好きな学問を深める場でしょ？』ごもつともです。

幼少期の出来事にとらわれて、いつも心配、心配と言葉にしていたら、高校卒業時の息子から親へのメッセージが『心配ばかりかけてごめんね。』だった。母反省。



私学中高一貫校のエピソード

高校受験がないために中学の私学受験をしました。当時は近くの公立中学校以外を受験する人は5年生の頃に担任の先生から申し出るように言われました。

高校受験がないので6年間好きなことに専念する時間が取れると思います。

本人の持つ雰囲気と校風が合うととても良いと思います。家庭の協力を求められることも多いので家庭の方針と学校の方針が合うといいかも。合わないと思う。私学は公立という受け皿があるので、退学になることもありますね。入ったら安泰ということでもない感じ。

うちの子が通っていたときは、特別な対応にはスキルは足りなかったと思います。今は受験での配慮もあると聞きます。先生たちはとても親切で小学校とのギャップが少ないような気がします。

働いていたので土曜日に授業があることや参観会も土曜日にあるのはありがたかった。

修学旅行や遠足は遠方が多い。一人で公共の交通機関が使えないと厳しいかも。とても楽しそうだった。自由行動も多い。いつも「学校はチャレンジャーだな。」と思っていた。

似たような子もいるし他にも色々な子がいる。外国籍の子もいるし。学校でのクリスマス会やハロウィーンのことを息子から話を聞いていると楽しかった。

『学区の友達がいないとかわいそうだね。』と言われ、公立小学校を選択したけど、結局友達とあまり遊ばなかった。これなら中学から私学もありかなと、小学校2年生から検討して、見学を始めた。気に入った学校は何度も足を運んだ。

ある中高一貫校は、友達が6年間一緒。人見知りのタイプだが、さすがに友達ができた。担任も中高の中で同じ先生方がぐるぐる配置されていた。先生方も子どもの性格やカラーをよく知ってくれていて、進路選択の助言もなかなかの得ていた。

たまに凸凹の子の保護者に『中学受験して良かったですか?』と尋ねられる。いつも『うちは結果的には良かったけど、こればかりは行ってみないとわからない。』と伝えている。どこの学校にしようかと親子で一生懸命考えて出した結論が、その時の最善。子どもには『学校どうしても嫌だと思ったら言ってね。世界は広いよ。別の学校にいつでも変えられるからね。』と伝えていた。

受験が近づくにつれて、家庭でも過去問を解いた。夫がワードで作成した注意事項『氏名を書くこと、最後まで文章題を読むこと・・・』等を読ませてから過去問を解かせた。

18 その他の機関

静岡市発達障害者支援センター「きらり」

自閉症などの発達障害のあるお子さんやその保護者等に対して、専門職員が相談に応じています。

受付時間：平日 8時30分～17時（祝日・年末年始を除く）

電話：054-285-1124

各区役所 子育て支援課

子育てに関する様々な相談、ひとり親家庭の支援サービスなどを扱います。

相談時間：平日 8時30分～17時15分（祝日・年末年始を除く）

葵区：054-221-1096 駿河区：054-287-8675

清水区：054-354-2429

児童相談所

児童虐待や子どもの発達の悩み等に対する相談、療育手帳の発行などを扱います。

平日 8時30分～17時15分（祝日・年末年始を除く）

葵区堤町 914-417

電話：054-275-2871

子ども若者相談センター

おおむね3歳までの子ども・若者に関する相談を行っています。

8時30分～17時15分（祝日・年末年始を除く）

葵区追手町5番1号 静岡庁舎本館1階

電話：054-221-1314

静岡市障害者歯科保健センター

地域の歯科医院では治療が難しい障がいのある方の歯科診療や事業所等への訪問歯科保健活動のほか、歯や口のこと・食べ方のことに関する相談などを行っています。

受付：火～土 8時30分～17時15分（祝日・年末年始を除く）

葵区城東町24-1 城東保健福祉工リア

電話：054-249-3147

また、お近くの歯科医院で気軽に受診していただけるように作成された、「静岡市障がい者歯科登録医一覧」

(<https://www.city.shizuoka.lg.jp/s7463/s003328.html>) もあります。

余暇活動（習い事やイベントなど）について

発達凸凹のあるお子さんが利用されている余暇活動について、ペアレントメンターや親の会等から情報が寄せられたものをお伝えします。
対象年齢や活動日時、料金や場所については変更される場合もありますので、直接お問い合わせください。

①療育水泳グループいるかの会（場所：西ヶ谷プール）

②あめんぼスイミングクラブ（場所：清見潟プール）

障害児者向け水泳教室です。

①②とも、連絡は代表の野田さんまで

電話：090-1789-6650

ミュージックコミュニティーネットワーク

発達凸凹のある子向けの音楽教室を行っています。

場所：市内各所（詳しくはお問い合わせください）

代表：高橋さん

メール：mcnryouiku@gmail.com

電話：054-357-0239

MMT音楽療法サロン Go 静岡

対象：障がい児、者（幼児から成人）

場所：清水社会福祉会館 はーとぴあ清水 1階活動室 等

連絡先：平井さん

メール：kyoko@hw.tnc.ne.jp

http://m-mt.org



きのいい羊達

運動等の教室。未就園児親子～小学校低学年の逆上がりや跳び箱につながる基礎運動遊びや各種イベントを行っています。

電話：054-368-5536

<https://www.k-hitsuji.net/>

スポーツクラブ Baila!!

発達凸凹・知的な遅れなどあるお子さん向けのサッカーと陸上のクラブを運営しています。

場所：清水興津小学校グラウンド

曜日：毎週月曜日

担当：金田さん

電話：054-659-9111

<https://baila.jp/>

YokaYoka

各自の好きや興味をベースにした余暇活動を定期的に行っています。詳しくは HP をご覧ください。

代表：前田さん

電話：080-3288-5570

<https://yoka-4ka.jimdofree.com/>

LINE QR コードは
こちら→



cocore（ココワ）

障がいのある方のアート作品をモチーフにした雑貨を製作・販売している任意団体です。活動を通じて、障がいのある人やその家族が、社会の中で生き生きと、笑顔で誇りをもって活躍できるそんな場を創りたいと考えています。

メール：cocore.art@gmail.com

<https://cocoreart.jimdofree.com/>

静岡県障害者文化芸術活動支援センター みらーと

障害のある人の文化芸術活動の普及を通して、障害のある人の社会参加と、障害や障害のある人に対する県民の理解促進を目的として、作家・作品の紹介やセミナーなどを実施しています。

電話：054-251-3520

<https://findart.jp/>（こちらの HP から「みらーと」の情報が見られます）

一般の習い事でも、相談のうえ配慮を受けられる場合もあるそうです。詳しくは各団体にお問い合わせください。

静岡市内にある親の会についてご紹介します。

静岡市静岡手をつなぐ育成会

知的障害・発達障害を持つ方の親の会です。葵区・駿河区在住の方が多くいます。

電話：054-254-5218（事務局）

<https://www.s-ikuseikai.jp/section>



静岡市清水手をつなぐ育成会

知的障害・発達障害を持つ方の親の会です。清水区在住の方が多くいます。

電話：090-4239-3193（事務局）

<http://shimizu-ikuseikai.seesaa.net/>

静岡県自閉症協会

自閉症児者を持つ親を中心とした会です。県内に10の支部があり、それぞれの地域の情報交換や、行政に要望を届け意見交換を行うとともに、自閉症の啓発活動にも力を入れています。

<http://www.ei-21.com/asj-shizuoka/>

静岡県LD等発達障がい児・者親の会 きんもくせい

発達障がいの子もたちが自分らしく幸せに生きていくことを願って親たちが自主的に活動している会です。4支部あり、静岡市は「中部支部」になります。

<https://kinmokusei.wixsite.com/shizuokakinmokusei>

静岡市ことばと心を育む会「にこっと」

ことばや発達に心配がある子どもとその家族をサポートするさまざまな活動を行っています。

http://blog.livedoor.jp/nikotto_sizuoka/

虹色たまご

幼児期～思春期の凸凹特性を持つ”気になる子ども”や発達障がいの子もを持つ親たちが、互いに支え合い成長し合うためのピアサポートグループです。安心して悩みが話せたり、情報交換ができる居場所「虹たま座談会」や勉強会などを定期的に開催しています。

<http://nijiirotamago.blogspot.com/>

チーム彩

発達凸凹っ子を育てているご家族が、子育ての悩みやストレスを解放できる。そんな居場所を、参加者と共に作るピアサポートの市民活動グループです。

<https://ameblo.jp/team-irodori/>

マミーズ・チャット・カフェ

発達凸凹のお子さんを持つ保護者を対象に、月1回、ペアレントメンターとおしゃべり会を開催しています。仲間作り、情報交換の場として、お気軽にご参加ください。

<https://1link.jp/mommyschatcafe>

mommyschatcafe@gmail.com



第三月曜会

子どもの発達など、悩み解決の糸口を模索することを目的としたお話会です。

今悩みがない方も大歓迎。気軽に話せる会です。

場所：城東保健福祉エリア複合棟1階、交流スペース

代表：前島さん

電話：090-4867-9598（ショートメール可）

静岡きょうだい会

（富士市が拠点ですが、静岡市の方も参加できます。）

病気や障害のある方の「きょうだい」のための自助グループです。対面やオンラインで集まり、おしゃべり会（座談会）や勉強会を行っています。

<https://shizuoka-kyodai.amebaownd.com/>



情緒支援学級から公立高校へ

幼児期

子供について

- ・とにかくじっとしてられない子でした。
- ・おしゃべりが好きで食べることも大好き。でも嫌なこと（出来事）は話しません。
- ・初めての場所、人、出来事など未経験に対して拒否反応はかなりありました。

園での様子

- ・大きな声であいさつをし、給食をいつもおかわりし、最後の一人になるまでいつも遊んでいる子でした。
- ・誰かと関わることはほとんど無く、一人で遊んでいることが多かった（先生には遊んでもらいました）。

療育

- ・OT、STに通っていました。はさみやのりなど身近な道具の使い方から体の使い方、力加減など様々なことを教わりました。

相談

相談できる限りのたくさんの方に話を伺いました。どれもがすべて、子供に当てはまる話ではありませんが、一つでも多く情報を得たいという気持ちと、その上で、どう子供に接すれば良いか、数多く答えを出したい気持ちでした。

卒園式

名前を呼ばれ、立ち上がり、先生の所まで行く。そして一人で席に戻って着席する。その当たり前の事ができた時、とても嬉しかったです。

小学校（情緒学級）

入学までにしたこと

- ・発達テストの時、学習面についてのアドバイスをたくさんもらいました。
- ・学校生活がどんなものかを、子供にたくさん話をしました。
- ・入学前に怒ったり泣いた時どんな状態になるのか、学校の先生の希望もあり実際にみてもらいました。

小学校生活

学習面では少人数の中でじっくりと学ぶことができました。4年生頃から友達、先生など、他者を意識し始めました。もっと話をしたい、一緒に活動したいという思いが芽生え、同時に悩みも増えていきました。うまくいかない日々の中、人の意見を聞く、折り合いをつけるといった事を少しずつ学んでいきました。

自分の何が良くて何が悪かったのか、どう直せばいいのか、たくさんの先生方に話してもらいました。交流授業を受けていたこともあり、普段から自分のクラスと交流先のクラスとで自分の過ごしやすい場所を選んで（特に休み時間）いたと思います。

中学校（情緒学級）

小学校同様、色々なタイプのお子さんがいますが、クラスメイト一人一人を“そんなタイプの子”として受け入れていました。周りのお子さんと同じだと思います。お互いある程度受け入れていたからなのか、クラス全体のトラブルも小学校に比べて少なかったと思いました。学習面はやはり少人数での授業なので、分からないところをすぐ質問できたり、先生に気づいてもらいやすいと本人が感じていたようです。

宿題は多く大変でした。いつも提出期限ギリギリでした。高校の情報をより早く、多く集めました。そうすることで子供自身、今何をすべきか意識が（少し）できたと思います。

高校生の今

希望の公立高校を受験し、合格しました。これまで一つ一つ壁を乗り越えることが本当に大変で、苦難の連続でした。私も子供もよく頑張ったのでは？と思っています。その度にたくさんの方の話に耳を傾けてきました。子供は納得や理解ができないこともあったと思いますが、そうしたことを続けるうちに、学校以外の安心できる場（人）が増えました。周りの方に支えていただいたお陰で、心が強くなったと思います。親子共に感謝しております。子供がどんな感情であれ、表に出すということは意志があるということなので、良いことと受け止めた上で、直すべきところがあれば伝え、対処方法を一緒に考えていきたいです。

将来の夢

機械関係の大学へ行き、貨物列車の運転手になること





通常学級マイペース 小学5年生

初診のきっかけ

幼稚園年中の時に担任の先生からの勧めで病院受診

医療の助言

担任にABC分析を記入してもらい、情報を共有した。

小学校入学後

教室を出てしまう行動が目立ったため、

- ・ほめ表を作って担任に記入してもらった。
- ・同時にインチュニブ・コンサータの服用を開始し、教室を出る行動はなくなり、落ち着いた。

【通級教室の利用】小学校1～4年生

5、6人集団で、友達の表情の読み取りやコミュニケーションの方法等、発達障害の子どもが苦手とするものをとてもわかりやすく教えて頂いた。

親は別室でマジックミラー越しにその様子を見ているがその際に先生が1名同室に居り解説してくださるので、親も一緒に学べる環境になっている。

また、在籍校の担任も通級を見学しに来てくれる日があり、通級と在籍校で常に密に連絡を取り合っていてくれるのがとても良いと感じた。

【放課後等デイサービスの利用】小学校5年生から現在

- A) 個別支援で、SSTや学習支援等親が希望した支援を行ってくれる。息子の場合は、主にSSTをお願いしている。
送迎なし。
- B) 個別学習支援+集団活動。息子の場合、主に学習面をサポートしてもらっている。宿題は放課後デイで全て済ませてくる。プラスで漢字・算数・英語などの勉強（演習）を行っている。宿題が終わった後、集団遊びにも楽しんで参加している。
学校や自宅など、希望した日時場所へ送迎あり。

【年中～小5を振り返って】

今でも悩みは尽きませんが、本当に色々な方々にサポートしてもらってきたと思います。

幼稚園や学校（担任・特別支援教育コーディネーター・スクールカウンセラー）・病院・放デイ・計画相談の事業者さん等、多方面に相談をして様々な角度から子どもに合った支援を模索し、環境を整える事が大事だと実感しています。友達にも恵まれ、子ども自身葛藤しながら心も体もとても成長したと思います。状況を把握し、一つ一つ対策していく事の積み重ねで良い方向へ繋がっていくと思うので、これからも情報共有を大切にしていきたいです。

後、親自身の息抜きも大切に、、、

【家族のモットー】

発達凸凹の息子とともに、人生を豊かに楽しく
趣味：魚釣り・スポーツ・サッカー





知的支援学級小学4年生

【発達障害かなあ？】

息子が発達障害と思うようになったのは、1歳半の健診前からでした。母子手帳にある「意味のある言葉をいくつか話しますか」「後ろから名前を呼んだ時、振り向きますか」の質問は「いいえ」でした。また、よくおもちゃの車のタイヤが自動で回っていることに興味を示したり、一輪車のタイヤをくるくる回したり、回るものへの興味が強かったのが何なのか不安に感じて、インターネットで調べると発達障害の文字が出てきました。またクレーン現象という言葉を知り、息子がその動作をしていることも気になりました。ただ、親が言っていることは理解をしていたようで、発達の遅れなのかなと不安はありながらも、大きな病気をすることもなく、毎日元気いっぱい成長していたのが救いでした。

【パンダ教室の利用】

（現在は名称と対象年齢に変更があります）

保健センターのベビーパンダ教室は、こども園のような感じで、みんなでゲームをしたり絵をかいいたり、息子は楽しく過ごすことができました。この教室は保健師さんや担当してくださった心理相談の先生やこども園の園長先生がスタッフでしたので、子育ての相談をすることができました。

次の年齢のパンダ教室へも継続で通いました。この教室では、始まる前にみんなの前で名前を呼ばれると手をあげてハイと返事をするのですが、息子はずっとできないでいました。そこで家でも教室のように名前を呼ぶことにしていました。すると、ある日突然にハイの言葉は出ませんでした。手をあげることが出来ました。きっと、集団の中で毎回やる行動の“呼ばれたら手をあげる”ことを自然に覚えたのだと思います。この時、私は涙が出るくらいうれしかったのを覚えています。

【2歳6カ月 心理相談～発達支援健診～医療へ】

- ・ 医師の診察・アドバイス
- ・ 心理セッション
- ・ リハビリ（OT／ST）
- ・ セミナーや研修会へ父母で参加

【幼児期のエピソード】

- ・ 園選択は公立こども園で加配を受けられると知り、申し込みました。
- ・ 就園前に、公立こども園体験入園をしてから加配面接を受けました。
- ・ 年少から入園し加配の先生が支援してくれました。
- ・ 「きらり」のセミナーや研修会へ父母で参加しました。

- ・ 入園時に、園と情報共有（子どもの様子を手紙に）を行いました。

【こども園での成長】

年少

入園当初こども園では、集団にすぐにはなじむことができず、息子は別行動をすることが多かったです。教室の中に棚で仕切のようなスペースを作ってください、そこが息子の安心できる場所になりました。息子は動物が大好きで、動物の絵をよく描いていました。それは、お友達にも認められていていつのまにか、こども園の中で息子は動物画伯になっていました。

年中

加配の先生が持ち上がり安定してスタートができました。一番驚いたのは、年中の時の運動会です。年少のときは運動会にはほとんど参加しないで、園庭の遊具で遊んでいました。それが、年中のときは、みんなと同じ応援席に座ることができました。また、競技にもちゃんと参加することができました。これには、主人も私もびっくりでした。

年長

加配の先生が変わったことでとても戸惑っていました。運動会が、まるで“年少の頃”に戻ってしまったかのよう、参加せず自分勝手な行動をしていました。

環境の変化がこんなにも行動に影響してしまうことだということがわかりました。そして、息子の様子を見て小学校は普通級ではなく支援級を希望するきっかけになりました。運動会以降は、息子は年長のときの加配の先生との信頼関係を築き、また通園するときに通る小学校へ友達と行くことをとても楽しみにするようになっていたこともあり、友達みんなと一緒に過ごせるようになりました。

卒園式では、まるで発達障害であることが嘘であるかのように、見事に最初から最後までお友達と同じことをすることができました。歌うこと、思い出やお礼の言葉を言うことや代表で記念品をもらいに行くことなど、全部できて感動の時間でした。

【幼児言語教室】

就学にむけて、「集団（グループ）でのコミュニケーションがとれること」が目的でしたが、初日はグループのやり取りが全くできず個人でやることになりました。先生と一対で行うことで、先生との信頼関係を築くことができ、問題をしっかりとやることができました。最後の日には、グループに入って小学校ごっこをやりました。すると、見事に最後まで落ち着いて取り組むことができるようになっていました。

【就学相談】

園長先生はその場ですぐ静岡市特別支援教育センターと小学校の両方へ連絡をしてくださいました。そして、先に園長先生が小学校へ行って校長先生と話をしてくださいました。

り、その数日後に夫婦で校長先生とお会いしてお願いをすることができました。また、就学相談も間に合い、5月に特別支援教育センターへ申し込み6月の審査を受けることが出来ました。

校長先生とお話をさせていただくと、校長先生もこの地域の小学校に支援級があった方がよいとの考えで、すぐに申請手続きを進めてくださることになりました。

特別支援学級が開設され入学できることになりました。本当に短い期間での静岡市特別支援教育センターとこども園と小学校のスピードある連携には、感謝しかありませんでした。

【入学前の準備】

- ・小学校宛に移行支援計画書を、こども園の先生が作成し提出してくださいました。S Tの先生も作ってくださいました。こちらは、私から小学校の担任の先生に渡しました。
- ・担任の先生へ息子の様子について手紙を渡しました。これは、研修で教えていただいたことで、こども園入園の時にも渡しました。とても参考になると、先生が喜んでくださいました。私も事前に息子のことを知り対応していただけだったので、渡してよかったと思っています。
- ・入学式前に入学式会場の見学をさせてもらいました。このとき、小学校のはからいで、一人リハーサルをもさせていただけました。

【小学生のエピソード】

小学校へ登校することをとても楽しみにしていたので、入学式も嫌がることなく、お友達と同じように行動し、席に座っていることが出来ました。事前に入学会場の見学とリハーサルをさせていただいたことも良かったと思います。

担任の先生が出張で不在のときや、交流クラスで授業を受けるときに、落ち着かずにはぐけてしまったり、拒んだりしたことがあります。トラブルを起こしたことはないのですが、こういうことがあったときには、「学校の先生は、みんな、あなたの先生です。だから、先生の言うことはしっかり聞きます！」「授業の時、みんなはどうしていますか？みんな同じことをしているね。だったらあなたも同じことをしないとね。」「お友達もみんな我慢しているんだよ。あなただけふらふらあっちいたりこっちいたりしていいのかな」ということを息子と話すと、正しい答えが返ってくるようになりました。何か困ったことがある都度、息子と話すようにし、覚えさせるようにしています。

【小学校生活】

入学式は最後まで困らず参加できました。

授業は、まじめに取り組んでいます。発表も積極的にするそうです。文章力や表現力は弱いのですが、自分なりの言葉で伝えようとしているそうです。休み時間には、外へ出て遊具で遊んだり走ったりして思いっきり体を動かしているそうです。給食時

間も大好きで息子の特性の一つでもあります。1か月分の献立を記憶し今日の給食は〇〇ですと言って教えてくれます。おかわりもしています。苦手な授業では、担任の先生が息子のペースに合わせて、じっくりと教えてくださいます。大好きな授業は、とても楽しそうにしているそうです。

【放課後等デイサービス 集団】小学1年生から

友達と楽しく遊びコミュニケーションが取れることを目的に、楽しんでいっています。

【放課後等デイサービス 個別】小学4年生から

挨拶やコミュニケーションなどのS S Tを個別で支援

【親が心がけている事】

ヘルプの言える子になる

いつか、親元を離れなければならないときがきます。親が助けてあげられないとき、自分から「助けてください」と言えるようになることが必要だと教えてもらいました。そのとおりだと思いました。学校やクラブでこまったことがあったら「こまりました」「手伝ってください」と言おうねと教え、言えるようになりました。

くれない族にならない

息子が喜んでくれるであろうと思って何かをしても、喜んでもらえなくてがっかりすることがありました。でも、これは私の自己満足にすぎないことだと教えてもらいました。「せっかく〇〇してあげたのに、〇〇してくれない」と思わないようにしています。

まいっか しかたがない

息子が期待していたことができなくてがっかりして情緒不安になるとき、「まいっか！しかたがないだよ！」と、何かがあるたびに言い続けてきました。今では、自分から我慢したりあきらめたりすることができるようになりました。

【息子の得意なこと】

- ・動物の絵
- ・漢字を書く
- ・1か月分の給食メニューをすべて覚える
- ・社会の授業：都道府県を全部暗記



次巻のおしらせ

令和6年度に「発達凸凹にじいろハンドブック～18歳からの支援～」を発行します。

第1章 大学での発達障害支援について

入試時・入学後の配慮
就職支援について

第2章 就労について

一般企業への就職（障害者雇用を含む）
就労支援機関の利用
ハローワーク
障害者職業センター
就労移行支援事業所
就労継続支援A型・B型事業所
障害者就業・生活支援センター
他、体験談等

第3章 福祉サービスや制度について

障害福祉サービスを使うには
障害者手帳とは
さまざまな障害福祉サービス・制度について
障害年金とは
成年後見制度とは
その他のサービス



静岡市では毎年、「ペアレントメンター・地域サポーター養成研修」を行い、地域の相談活動に派遣を行っています。

「ペアレントメンターになりたい」「ペアレントメンターに相談したい」「ペアレントメンターを派遣してほしい」などのご希望がありましたら、静岡市発達障害者支援センター「きらり」までご連絡ください。

このハンドブックはコピーフリーです。支援者が必要な部分のみ、コピーして支援にお使いいただいても構いません。

書 名 : 育てにくさを感じたら～にじいろ子育てハンドブック
0歳～18歳までの支援

発行年月日 : 令和5年3月31日 第1版
令和7年2月1日 第2版

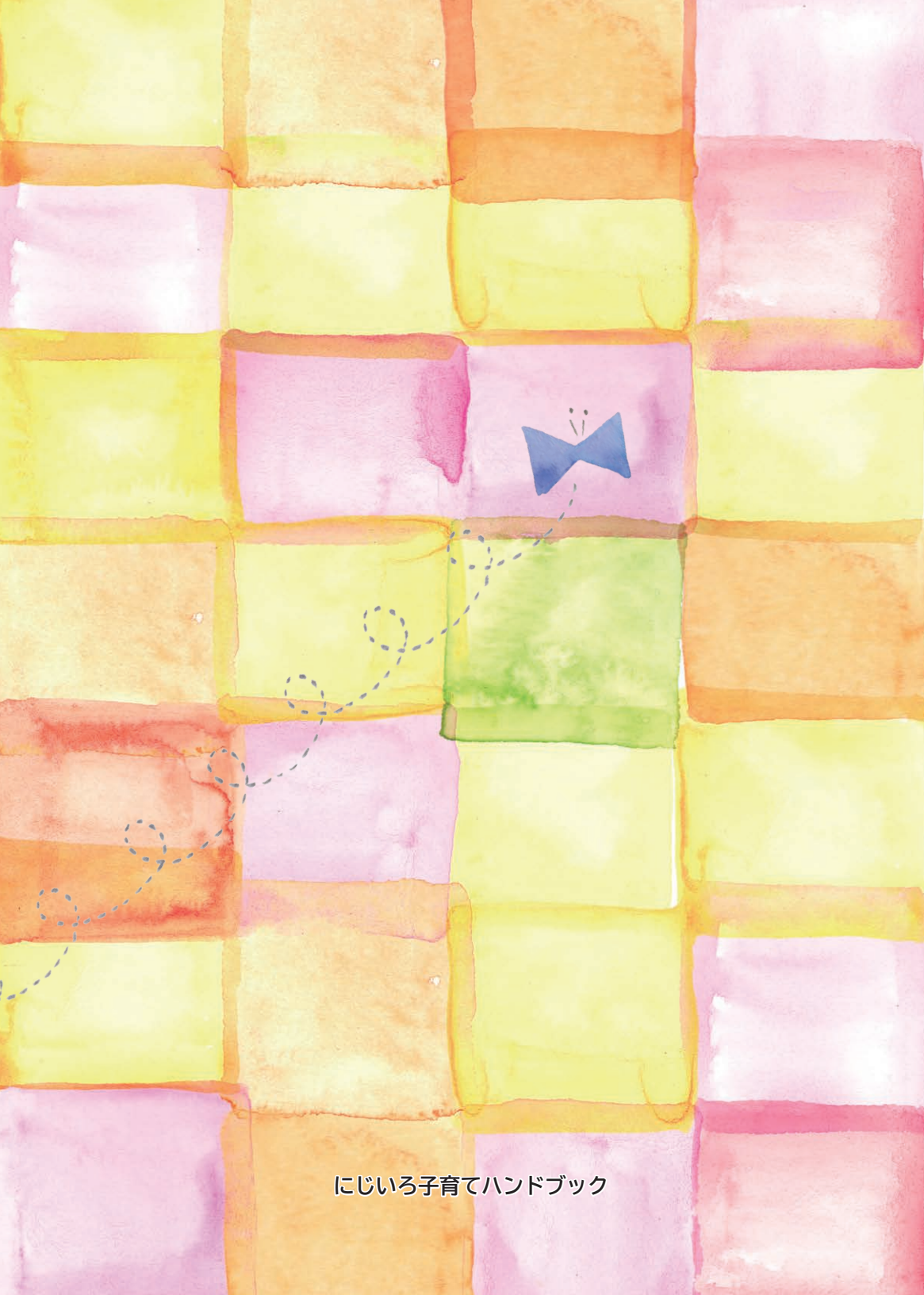
作 成 : 「にじいろ子育てハンドブック」作成委員会
(静岡市発達障害者支援センター「きらり」)
(静岡市ペアレントメンター 一同)

お問い合わせ: 静岡市発達障害者支援センター「きらり」

電 話 : 054-285-1124

<https://www.shssc.jp/>





にじいろ子育てハンドブック